

大学番号：023

注3

意見伺い（JD）

[平成28年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科
東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻（博士課程）

注2

【意見伺い（JD）】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人東京医科歯科大学
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 学長戦略企画課

職名・氏名 係長・^{シモダ}下田 ^{ヒロミ}裕巳

電話番号 03-5803-5021

（夜間） 03-5803-5021

F A X 03-5803-0273

e-mail houki.adm@tmd.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

医歯学総合研究科

＜東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻（博士課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	17
4. 既設大学等の状況	18
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	38
7. その他全般的事項	41

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人東京医科歯科大学

【連携外国大学の設置者】チリ共和国チリ大学

(2) 大 学 名

東京医科歯科大学大学院

【連携外国大学の名称】

University of Chile(Universidad de Chile)

(3) 調査対象大学等の位置

〒113-8510

東京都文京区湯島1-5-45

【連携外国大学の本部の位置】

Av. Independencia 1027, Santiago, Chile

(Av. Libertador Bernardo O'Higgins 1058, Santiago de Chile)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(フリガナ) 氏 名 (現職就任年月)	(フリガナ) 氏 名 (現職就任年月)	
学 長	(ヨシザワ ヤスキ) 吉澤 靖之 (平成26年4月)		
学 部 長	(エイシ ヨシノブ) 江石 義信 (平成28年4月)	(キタガワ マサノブ) 北川 昌伸 (平成31年4月)	研究科長交代のため 平成31年4月1日(元)
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
医歯学総合研究科 東京医科歯科大学・ チリ大学国際連携 医学系専攻 (博士課程) 博士(医学)	医学関係	5年	3人 <322>	— 年次人	15人 <1044>	基礎となる学部等 医学部医学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ < >内の数字は、母体となる学部等の全体の入学定員を記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員超過率	備 考
	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学			
A 入学定員	3人 (-) [-]		3人 (-) [-]		3人 (-) [-]		3人 (-) [-]		3人 (-) [-]		0.33 倍	- 倍	〔 〕内には、チリ大学で入学手続きを行った外国籍の学生数を記載。なお、当該学生は、3年次以降、特別研究の進捗状況等に応じて、ビザを取得した後、日本に来日する。 (28) 平成29年10月入学者向けに平成29年8月に入試を行う予定である。 (29) 平成30年10月入学者向けに平成30年6月又は7月に入試を行う予定である。 (30) 令和元年10月入学者向けに令和元年8月又は9月に入試を行う予定である。(元)
志願者数	1 (-) [1]	- (-) [-]	0 (-) [0]	2 (1) [1]	1 (-) [1]	2 (-) [1]	0 (-) [0]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]			
受験者数	1 (-) [1]	- (-) [-]	0 (-) [0]	2 (1) [1]	1 (-) [1]	2 (-) [1]	0 (-) [0]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]			
合格者数	1 (-) [1]	- (-) [-]	0 (-) [0]	2 (1) [1]	0 (-) [0]	2 (-) [1]	0 (-) [0]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]			
B 入学者数	1 (-) [1]	- (-) [-]	0 (-) [0]	2 (1) [1]	0 (-) [0]	1 (-) [0]	0 (-) [0]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A	0.33		0.66		0.33		0.00		-				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 「春季入学」、「その他の学期」については、各国際連携学科の入学時期に合わせて表を修正してください。
- (例) 「春季入学」→「4月入学」、「10月入学」等
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	
1年次	1 [1] (-)	- [-] (-)	0 [-] (-)	2 [1] (-)	0 [-] (-)	1 [-] (-)	0 [-] (-)	1 [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	[]内には、チリ大学で入学手続きを行った外国籍の学生数を記載。なお、当該学生は、3年次以降、特別研究の進捗状況等に応じて、ビザを取得した後、日本に来日する。(28) 平成29年10月入学向けに平成29年8月に入試を行う予定である。(29) 平成30年10月入学向けに平成30年6月又は7月に入試を行う予定である。(30) 令和元年10月入学向けに令和元年8月又は9月に入試を行う予定である。(元)
2年次			1 [1] (-)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	2 [1] (-)	0 [-] (-)	2 [1] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
3年次					1 [1] (-)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	0 [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
4年次							1 [1] (-)	0 [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
計							4 [2] (-)	0 [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 「春季入学」、「その他の学期」については、各国際連携学科の入学時期に合わせて表を修正してください。
 - (例) 「春季入学」→「4月入学」、「10月入学」等
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	1 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
平成29年度	3 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
平成30年度	4 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	4 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。〔在学者数から退学者数を減らす必要はありません。〕
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{1} = \boxed{0} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{4} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{4} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜医歯学総合研究科 東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻＞

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目群－ 一般教養科目	癌のゲノムとバイオ情報工学		前・後・2前	チリ大学	3						2		
	英語での科学論文ディスカッション		前・後・2前	チリ大学	3			1					
	学術英語における文法及び記述コミュニケーションスキル		前・後・2前	チリ大学	3				1				
	生物統計学		1前・後・2前	チリ大学	3						1		
	生体医科学研究の倫理		1前・後・2前	チリ大学	3				1		1		
	初期研究研修		1前	東京医科歯科大学	1			8	2		1		4
	小計(6科目)	-	-	-	1	15	0	9	4	0	5	0	4
共通科目群－ 基礎科目	細胞生理学		1前・後・2前	チリ大学	5			1					
	癌に関わる細胞及び分子生物学		前・後・2前	チリ大学	4			1					
	システム生理学		前・後・2前	チリ大学	5				1				
	免疫学入門		前・後・2前	チリ大学	4				1				
	基礎薬理学		前・後・2前	チリ大学	4				1				
	分子微生物学		前・後・2前	チリ大学	4						1		
	臨床研究の方法論の基礎		前・後・2前	チリ大学	3			1					
	バイオインフォマティクス		1前・後・2前	東京医科歯科大学	2			2		2	1		5
	小計(8科目)	-	-	-	0	31	0	5	3	2	2	0	5

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目群－ 一般教養科目	癌のゲノムとバイオ情報工学		1前・後・2前	チリ大学		3					2		
	英語での科学論文ディスカッション		1前・後・2前	チリ大学		3		1					
	学術英語における文法及び記述コミュニケーションスキル		1前・後・2前	チリ大学		4		1					
	生物統計学		1前・後・2前	チリ大学		3					1		
	生物統計学Ⅱ		1前・後・2前	チリ大学		3					1		
	生体医科学研究の倫理		1前・後・2前	チリ大学		3			1		1		
	初期研究研修		1前	東京医科歯科大学	1			10	1				
	小計(7科目)	-	-	-	1	19	0	11	1	0	4	0	0
共通科目群－ 基礎科目	細胞生理学		1前・後・2前	チリ大学		5		1					
	癌に関わる細胞及び分子生物学		1前・後・2前	チリ大学		5		1	1				
	システム生理学		1前・後・2前	チリ大学		5			1				
	免疫学入門		1前・後・2前	チリ大学		4			1				
	基礎薬理学		1前・後・2前	チリ大学		4			1				
	分子微生物学		1前・後・2前	チリ大学		4					1		
	臨床研究の方法論の基礎		1前・後・2前	チリ大学		3		1	2				
	細胞・分子生物学		1前・後・2前	チリ大学		5		1	1				
	研究の生体倫理		1後・2後	チリ大学		3					1		
	ビッグデータ解析学		1前・後・2前	東京医科歯科大学		1		1			1		4
	消化管外科学研究概論		1後	東京医科歯科大学		4		1					
	総合外科学研究概論		1後	東京医科歯科大学		4		1					
	先制医歯理工学概論Ⅰ		1前・2前	東京医科歯科大学		1		1					
	先制医歯理工学概論Ⅱ		1後・2後	東京医科歯科大学		1		1					
	小計(14科目)	-	-	-	0	49	0	7	7	0	2	0	4

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目群 応用科目	細胞・分子生物学上級		1前・後・2前	チリ大学	3			1			1		
	器官系統特殊生理病理学		1前・後・2前	チリ大学	5			1					
	細胞分子免疫学		1前・後・2前	チリ大学	5						1		
	遺伝医学		1前・後・2前	チリ大学	5			1			1		
	人類生化学		1前・後・2前	チリ大学	5			2					
	生体医科学における細胞シグナル伝達		1前・後・2前	チリ大学	3			2					
	診断・臨床研究への応用分子生物学		1前・後・2前	チリ大学	3				2				
	疫学		1前・後・2前	チリ大学	3			1					
	機能分子化学		1前・後・2前	東京医科歯科大学	2			3	2		1		
	疾患予防パブリックヘルス医学概論		1前・後・2前	東京医科歯科大学	2			4	1	2			
小計(10科目)					0	36	0	14	6	2	4	0	0
研究演習	基礎研究演習		1前・後・2前	チリ大学	10			1	1		4		
	臨床研究演習		1前・後・2前	チリ大学	10			1	2				
	小計(2科目)	-	-	-	20	0	0	2	3	0	4	0	0
文献ゼミナール	文献ゼミナール		1前・後・2前	チリ大学	2			4	4		4		
	小計(1科目)	-	-	-	2	0	0	4	4	0	4	0	0

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目群 応用科目	細胞・分子生物学上級		1前・後・2前	チリ大学	3			1			1		
	器官系統特殊生理病理学		1前・後・2前	チリ大学	5			1					
	細胞分子免疫学		1前・後・2前	チリ大学	5						1		
	遺伝医学		1前・後・2前	チリ大学	5			1			1		
	人類生化学		1前・後・2前	チリ大学	5			2					
	生体医科学における細胞シグナル伝達		1前・後・2前	チリ大学	3			2					
	診断・臨床研究への応用分子生物学		1前・後・2前	チリ大学	3				2				
	疫学		1前・後・2前	チリ大学	3				1				
	バイオインフォマティクス1		1前・後・2前	チリ大学	2						2		
	バイオインフォマティクス2		1前・後・2前	チリ大学	2						2		
	機能分子化学		1前・後・2前	東京医科歯科大学	2			3			1		
	疾患予防パブリックヘルス医学概論		1前・後・2前	東京医科歯科大学	2			5		2	1		
	臨床腫瘍学研究特論		1後・2後	東京医科歯科大学	4			1					
	疾患生命科学特論		1前・2前	東京医科歯科大学	2			1					
	データサイエンス特論 I		1前・2前	東京医科歯科大学	1								1
小計(15科目)					0	47	0	16	3	2	7	0	1
研究演習	基礎研究演習		1前・後・2前	チリ大学	10			1	1		4		
	臨床研究演習		1前・後・2前	チリ大学	10				2				
	小計(2科目)	-	-	-	20	0	0	1	3	0	4	0	0
文献ゼミナール	文献ゼミナール		1前・後・2前	チリ大学	3			4	4		4		
	小計(1科目)	-	-	-	2	0	0	4	4	0	4	0	0

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担			
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目群 上部消化管外科	上部消化管外科臨床基礎(チリ大学)		1後～2	チリ大学	20		3	3		1						
	上部消化管外科臨床応用(チリ大学)		3～5	チリ大学	27		3	3		1						
	上部消化管外科臨床基礎(東京医科歯科大学)		3～4	東京医科歯科大学	20		1	1	1	4						
	上部消化管外科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)		4～5	東京医科歯科大学	35		1	1	1	4						
	上部消化管外科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)		3・4・5	東京医科歯科大学	8		1	1	1	4						
	小計(5科目)	-	-	-	0	110	0	4	4	1	5	0	0			
専門科目群 大腸肛門外科	大腸肛門外科臨床基礎(チリ大学)		1後～2	チリ大学	20		2	2		2						
	大腸肛門外科臨床応用(チリ大学)		3～5	チリ大学	27		2	2		2						
	大腸肛門外科臨床基礎(東京医科歯科大学)		3～4	東京医科歯科大学	20		1	2	1	2						
	大腸肛門外科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)		4～5	東京医科歯科大学	35		1	2	1	2						
	大腸肛門外科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)		3・4・5	東京医科歯科大学	8		1	2	1	2						
	小計(5科目)	-	-	-	0	110	0	3	4	1	4	0	0			
専門科目群 胃腸病内科	胃腸病内科臨床基礎(チリ大学)		1後～2	チリ大学	20		3	2		1						
	胃腸病内科臨床応用(チリ大学)		3～5	チリ大学	27		3	2		1						
	胃腸病内科臨床基礎(東京医科歯科大学)		3～4	東京医科歯科大学	20		3	2								
	胃腸病内科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)		4～5	東京医科歯科大学	35		3	2								
	胃腸病内科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)		3・4・5	東京医科歯科大学	8		3	2								
	小計(5科目)	-	-	-	0	110	0	5	4	0	2	0	0			
特別研究	特別研究(チリ大学)		3～5	チリ大学	40		7	7		4						
	特別研究(東京医科歯科大学)		3～5	東京医科歯科大学	40		29	12	9	10						
	小計(2科目)	-	-	-	80	0	0	36	19	9	14	0	0			
合計(44科目)					-	-	-	103	412	0	44	24	9	22	0	9
卒業要件及び履修方法																
1)修了要件は、本専攻に5年以上在学し、所定の授業科目について191単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。 2)修得すべき191単位の履修方法は次のとおりとする。 a)共通科目群のうち、必修科目である一般教養科目の初期研究研修(1単位)、研究演習2科目(20単位)、文献ゼミナール1科目(2単位)を修得すること。 b)共通科目群のうち、選択科目である一般教養科目1科目(3単位)以上、基礎科目3科目(9単位)以上、応用科目3科目(6単位)以上を修得すること。 c)専門科目の「上部消化管外科」、「大腸肛門外科」、「胃腸病内科」の3分野から1分野を選択し、学生の医師資格に応じて選択した分野の指定科目(55単位)(※)を修得すること。 ※指定科目については以下のとおり ①チリ国医師資格を持つ学生の場合、臨床基礎(チリ大学)、臨床応用(チリ大学)及び臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)の3科目。 ②日本国医師資格を持つ学生の場合、臨床基礎(東京医科歯科大学)、臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)の2科目。 d)必修科目である特別研究を2科目(80単位)修得すること。 e)上記a)及びb)の合計56単位、並びにc)及びd)の総計191単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること ただし、191単位以上のうち、東京医科歯科大学が開設する授業科目について41単位以上、チリ大学が開設する授業科目について62単位以上修得すること。																

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担			
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目群 上部消化管外科	上部消化管外科臨床基礎(チリ大学)		1後～2	チリ大学		20		3	2		1					
	上部消化管外科臨床応用(チリ大学)		3～5	チリ大学		27		3	2		1					
	上部消化管外科臨床基礎(東京医科歯科大学)		3～4	東京医科歯科大学		20			2	3	2					
	上部消化管外科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)		4～5	東京医科歯科大学		35			2	3	2					
	上部消化管外科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)		3・4・5	東京医科歯科大学		8			2	3	2					
	小計(5科目)	-	-	-	0	110	0	3	4	3	3	0	0			
専門科目群 大腸肛門外科	大腸肛門外科臨床基礎(チリ大学)		1後～2	チリ大学		20		1	3		1					
	大腸肛門外科臨床応用(チリ大学)		3～5	チリ大学		27		1	3		1					
	大腸肛門外科臨床基礎(東京医科歯科大学)		3～4	東京医科歯科大学		20			2	2		2				
	大腸肛門外科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)		4～5	東京医科歯科大学		35			2	2		2				
	大腸肛門外科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)		3・4・5	東京医科歯科大学		8			2	2		2				
	小計(5科目)	-	-	-	0	110	0	3	5	0	3	0	0			
専門科目群 胃腸病内科	胃腸病内科臨床基礎(チリ大学)		1後～2	チリ大学		20		3	2		1					
	胃腸病内科臨床応用(チリ大学)		3～5	チリ大学		27		3	2		1					
	胃腸病内科臨床基礎(東京医科歯科大学)		3～4	東京医科歯科大学		20			3	1						
	胃腸病内科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)		4～5	東京医科歯科大学		35			3	1						
	胃腸病内科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)		3・4・5	東京医科歯科大学		8			3	1						
	小計(5科目)	-	-	-	0	110	0	6	3	0	1	0	0			
特別研究	特別研究(チリ大学)		3～5	チリ大学	40			7	7		3					
	特別研究(東京医科歯科大学)		3～5	東京医科歯科大学	40			38	9	6	7					
	小計(2科目)	-	-	-	80	0	0	45	16	6	10	0	0			
合計(56科目)					-	-	-	103	445	0	51	21	6	21	0	5
卒業要件及び履修方法																
1)修了要件は、本専攻に5年以上在学し、所定の授業科目について191単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。 2)修得すべき191単位の履修方法は次のとおりとする。 a)共通科目群のうち、必修科目である一般教養科目の初期研究研修(1単位)、研究演習2科目(20単位)、文献ゼミナール1科目(2単位)を修得すること。 b)共通科目群のうち、選択科目である一般教養科目1科目(3単位)以上、基礎科目3科目(9単位)以上、応用科目3科目(6単位)以上を修得すること。 c)専門科目の「上部消化管外科」、「大腸肛門外科」、「胃腸病内科」の3分野から1分野を選択し、学生の医師資格に応じて選択した分野の指定科目(55単位)(※)を修得すること。 ※指定科目については以下のとおり ①チリ国医師資格を持つ学生の場合、臨床基礎(チリ大学)、臨床応用(チリ大学)及び臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)の3科目。 ②日本国医師資格を持つ学生の場合、臨床基礎(東京医科歯科大学)、臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)の2科目。 d)必修科目である特別研究を2科目(80単位)修得すること。 e)上記a)及びb)の合計56単位、並びにc)及びd)の総計191単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること ただし、191単位以上のうち、東京医科歯科大学が開設する授業科目について41単位以上、チリ大学が開設する授業科目について62単位以上修得すること。																

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目群一般教養科目	癌のゲノムとバイオ情報工学		1前・後・2前	チリ大学		3						2		
	英語での科学論文ディスカッション		1前・後・2前	チリ大学		3		1						
	生物統計学		1前・後・2前	チリ大学		3						1		
	生体医科学研究の倫理		1前・後・2前	チリ大学		3			1			1		
	初期研究研修		1前	東京医科歯科大学	1				8	1		1		3
	小計(5科目)	-	-	-	1	12	0	9	2	0	5	0	3	
共通科目群基礎科目	細胞生理学		1前・後・2前	チリ大学		5		1						
	癌に関わる細胞及び分子生物学		1前・後・2前	チリ大学		4		1						
	システム生理学		1前・後・2前	チリ大学		5			1					
	免疫学入門		1前・後・2前	チリ大学		4			1					
	基礎薬理学		1前・後・2前	チリ大学		4			1					
	分子微生物学		1前・後・2前	チリ大学		4						1		
	臨床研究の方法論の基礎		1前・後・2前	チリ大学		3		1	3					
	バイオインフォマティクス		1前・後・2前	東京医科歯科大学		2			2			1		7
	小計(8科目)	-	-	-	0	31	0	5	6	0	2	0		

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目群一般教養科目	癌のゲノムとバイオ情報工学		1 前・後・2前	チリ大学		3						2		
	英語での科学論文ディスカッション		1 前・後・2前	チリ大学		3		1						
	生物統計学		1 前・後・2前	チリ大学		3						1		
	生体医科学研究の倫理		1 前・後・2前	チリ大学		3			1			1		
	初期研究研修		1前	東京医科歯科大学	1				8	1		1		2
	小計(5科目)	-	-	-	1	12	0	9	2	0	5	0	2	
共通科目群基礎科目	細胞生理学		1 前・後・2前	チリ大学		5		1						
	癌に関わる細胞及び分子生物学		1 前・後・2前	チリ大学		5		1						
	システム生理学		1 前・後・2前	チリ大学		5			1					
	免疫学入門		1 前・後・2前	チリ大学		4			1					
	基礎薬理学		1 前・後・2前	チリ大学		4			1					
	分子微生物学		1 前・後・2前	チリ大学		4					1			
	臨床研究の方法論の基礎		1 前・後・2前	チリ大学		3		1	2					
	細胞・分子生物学		1 前・後・2前	チリ大学		5		1	1					
	バイオインフォマティクス		1 前・後・2前	東京医科歯科大学		2		2			1			7
	小計(9科目)	-	-	-	0	37	0	6	6	0	2	0	7	

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目群 応用科目	細胞・分子生物学上級		1前・後・2前	チリ大学	3			1			1		
	器官系統特殊生理病理学		1前・後・2前	チリ大学	5			1					
	細胞分子免疫学		1前・後・2前	チリ大学	5						1		
	遺伝医学		1前・後・2前	チリ大学	5			1			1		
	人類生化学		1前・後・2前	チリ大学	5			2					
	生体医科学における細胞シグナル伝達		1前・後・2前	チリ大学	3			2					
	診断・臨床研究への応用分子生物学		1前・後・2前	チリ大学	3				2				
	疫学		1前・後・2前	チリ大学	3			1					
	機能分子化学		1前・後・2前	東京医科歯科大学	2			3	2		1		
	疾患予防パブリックヘルス医学概論		1前・後・2前	東京医科歯科大学	2			5		2			
小計(10科目)					0	36	0	14	5	2	4	0	0
研究演習	基礎研究演習		1前・後・2前	チリ大学	10			1	1		4		
	臨床研究演習		1前・後・2前	チリ大学	10			1	2				
	小計(2科目)	-	-	-	20	0	0	2	3	0	4	0	0
文献ゼミナール	文献ゼミナール		1前・後・2前	チリ大学	2			4	4		4		
	小計(1科目)	-	-	-	2	0	0	4	4	0	4	0	0

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目群 応用科目	細胞・分子生物学上級		1前・後・2前	チリ大学	3			1			1		
	器官系統特殊生理病理学		1前・後・2前	チリ大学	5			1					
	細胞分子免疫学		1前・後・2前	チリ大学	5						1		
	遺伝医学		1前・後・2前	チリ大学	5			1			1		
	人類生化学		1前・後・2前	チリ大学	5			2					
	生体医科学における細胞シグナル伝達		1前・後・2前	チリ大学	3			2					
	診断・臨床研究への応用分子生物学		1前・後・2前	チリ大学	3				2				
	疫学		1前・後・2前	チリ大学	3			1					
	バイオインフォマティクス1		1前・後・2前	チリ大学	2						2		
	バイオインフォマティクス2		1前・後・2前	チリ大学	2						2		
機能分子化学	機能分子化学		1前・後・2前	東京医科歯科大学	2			3	2		1		
	疾患予防パブリックヘルス医学概論		1前・後・2前	東京医科歯科大学	2			5		2			
小計(12科目)					0	40	0	14	5	2	6	0	0
研究演習	基礎研究演習		1前・後・2前	チリ大学	10			1	1		4		
	臨床研究演習		1前・後・2前	チリ大学	10				2				
	小計(2科目)	-	-	-	20	0	0	1	3	0	4	0	0
文献ゼミナール	文献ゼミナール		1前・後・2前	チリ大学	3			5	4		4		
	小計(1科目)	-	-	-	3	0	0	5	4	0	4	0	0

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担			
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目群 上部消化管外科	上部消化管外科臨床基礎(チリ大学)		1後～2	チリ大学	20			3	3		1					
	上部消化管外科臨床応用(チリ大学)		3～5	チリ大学	27			3	3		1					
	上部消化管外科臨床基礎(東京医科歯科大学)		3～4	東京医科歯科大学	20			1	1	1	4					
	上部消化管外科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)		4～5	東京医科歯科大学	35			1	1	1	4					
	上部消化管外科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)		3・4・5	東京医科歯科大学	8			1	1	1	4					
	小計(5科目)	-	-	-	0	110	0	4	5	1	4	0	0			
専門科目群 大腸肛門外科	大腸肛門外科臨床基礎(チリ大学)		1後～2	チリ大学	20			2	2		2					
	大腸肛門外科臨床応用(チリ大学)		3～5	チリ大学	27			2	2		2					
	大腸肛門外科臨床基礎(東京医科歯科大学)		3～4	東京医科歯科大学	20			1	2	1	2					
	大腸肛門外科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)		4～5	東京医科歯科大学	35			1	2	1	2					
	大腸肛門外科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)		3・4・5	東京医科歯科大学	8			1	2	1	2					
	小計(5科目)	-	-	-	0	110	0	3	4	1	4	0	0			
専門科目群 胃腸病内科	胃腸病内科臨床基礎(チリ大学)		1後～2	チリ大学	20			3	2		1					
	胃腸病内科臨床応用(チリ大学)		3～5	チリ大学	27			3	2		1					
	胃腸病内科臨床基礎(東京医科歯科大学)		3～4	東京医科歯科大学	20			3	2							
	胃腸病内科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)		4～5	東京医科歯科大学	35			3	2							
	胃腸病内科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)		3・4・5	東京医科歯科大学	8			3	2							
	小計(5科目)	-	-	-	0	110	0	6	4	0	1	0	0			
特別研究	特別研究(チリ大学)		3～5	チリ大学	40			7	7		4					
	特別研究(東京医科歯科大学)		3～5	東京医科歯科大学	40			32	12	7	9					
	小計(2科目)	-	-	-	80	0	0	39	19	7	13	0	0			
合計(43科目)					-	-	-	103	409	0	46	23	7	21	0	10
卒業要件及び履修方法																
1)修了要件は、本専攻に5年以上在学し、所定の授業科目について191単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。 2)修得すべき191単位の履修方法は次のとおりとする。 a)共通科目群のうち、必修科目である一般教養科目の初期研究研修(1単位)、研究演習2科目(20単位)、文献ゼミナール1科目(2単位)を修得すること。 b)共通科目群のうち、選択科目である一般教養科目1科目(3単位)以上、基礎科目3科目(9単位)以上、応用科目3科目(6単位)以上を修得すること。 c)専門科目の「上部消化管外科」、「大腸肛門外科」、「胃腸病内科」の3分野から1分野を選択し、学生の医師資格に応じて選択した分野の指定科目(55単位)(※)を修得すること。 ※指定科目については以下のとおり ①チリ国医師資格を持つ学生の場合、臨床基礎(チリ大学)、臨床応用(チリ大学)及び臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)の3科目。 ②日本国医師資格を持つ学生の場合、臨床基礎(東京医科歯科大学)、臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)の2科目。 d)必修科目である特別研究を2科目(80単位)修得すること。 e)上記a)及びb)の合計56単位、並びにc)並びにd)の総計191単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 ただし、191単位以上のうち、東京医科歯科大学が開設する授業科目について41単位以上、チリ大学が開設する授業科目について62単位以上修得すること。																

科目 区分	授業科目の名称	共同 開設 科目	記 当 年 次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担			
					必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
専門科目群 上部消化 管外科	上部消化管外科臨床基礎(チリ大学)		1後～2	チリ大学		20		4	2		1					
	上部消化管外科臨床応用(チリ大学)		3～5	チリ大学		27		4	2		1					
	上部消化管外科臨床基礎(東京医科歯科大学)		3～4	東京医科歯科大学		20		1	2	2	2					
	上部消化管外科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)		4～5	東京医科歯科大学		35		1	2	2	2					
	上部消化管外科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)		3・4・5	東京医科歯科大学		8		1	2	2	2					
	小計(5科目)	-	-	-	0	110	0	5	4	2	3	0	0			
専門科目群 大腸肛門外科	大腸肛門外科臨床基礎(チリ大学)		1後～2	チリ大学		20		2	3		1					
	大腸肛門外科臨床応用(チリ大学)		3～5	チリ大学		27		2	3		1					
	大腸肛門外科臨床基礎(東京医科歯科大学)		3～4	東京医科歯科大学		20		1	3		2					
	大腸肛門外科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)		4～5	東京医科歯科大学		35		1	3		2					
	大腸肛門外科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)		3・4・5	東京医科歯科大学		8		1	3		2					
	小計(5科目)	-	-	-	0	110	0	3	6	0	3	0	0			
専門科目群 胃腸病内科	胃腸病内科臨床基礎(チリ大学)		1後～2	チリ大学		20		3	2		1					
	胃腸病内科臨床応用(チリ大学)		3～5	チリ大学		27		3	2		1					
	胃腸病内科臨床基礎(東京医科歯科大学)		3～4	東京医科歯科大学		20		3	2							
	胃腸病内科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)		4～5	東京医科歯科大学		35		3	2							
	胃腸病内科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)		3・4・5	東京医科歯科大学		8		3	2							
	小計(5科目)	-	-	-	0	110	0	6	4	0	1	0	0			
特別研究	特別研究(チリ大学)		3～5	チリ大学	40		8	7			3					
	特別研究(東京医科歯科大学)		3～5	東京医科歯科大学	40			32	13	7	8					
	小計(2科目)	-	-	-	80	0	0	40	20	7	11	0	0			
合計(46科目)					-	-	-	104	419	0	46	25	7	20	0	9
卒業要件及び履修方法																
1)修了要件は、本専攻に5年以上在学し、所定の授業科目について191単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。 2)修得すべき191単位の履修方法は次のとおりとする。 a)共通科目群のうち、必修科目である一般教養科目の初期研究研修(1単位)、研究演習2科目(20単位)、文献ゼミナール1科目(2単位)を修得すること。 b)共通科目群のうち、選択科目である一般教養科目1科目(3単位)以上、基礎科目3科目(9単位)以上、応用科目3科目(6単位)以上を修得すること。 c)専門科目の「上部消化管外科」、「大腸肛門外科」、「胃腸病内科」の3分野から1分野を選択し、学生の医師資格に応じて選択した分野の指定科目(55単位)(※)を修得すること。 ※指定科目については以下のとおり ①チリ国医師資格を持つ学生の場合、臨床基礎(チリ大学)、臨床応用(チリ大学)及び臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)の3科目。 ②日本国医師資格を持つ学生の場合、臨床基礎(東京医科歯科大学)、臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)の2科目。 d)必修科目である特別研究を2科目(80単位)修得すること。 e)上記a)及びb)の合計56単位、並びにc)並びにd)の総計191単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 ただし、191単位以上のうち、東京医科歯科大学が開設する授業科目について41単位以上、チリ大学が開設する授業科目について62単位以上修得すること。																

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	記号 年度	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目群一般教養科目	癌のゲノムとバイオ情報工学		1 前・後・2前	チリ大学		3					2		
	英語での科学論文ディスカッション		1 前・後・2前	チリ大学		3		1					
	学術英語における文法及び記述コミュニケーションスキル		1 前・後・2前	チリ大学		4		1					
	生物統計学		1 前・後・2前	チリ大学		3					1		
	生体医科学研究の倫理		1 前・後・2前	チリ大学		3			1		1		
	初期研究研修		1前	東京医科歯科大学	1			8			1		2
	小計(6科目)	-	-	-	1	16	0	10	1	0	5	0	2
共通科目群基礎科目	細胞生理学		1 前・後・2前	チリ大学		5		1					
	癌に関わる細胞及び分子生物学		1 前・後・2前	チリ大学		5		1	1				
	システム生理学		1 前・後・2前	チリ大学		5			1				
	免疫学入門		1 前・後・2前	チリ大学		4			1				
	基礎薬理学		1 前・後・2前	チリ大学		4			1				
	分子微生物学		1 前・後・2前	チリ大学		4					1		
	臨床研究の方法論の基礎		1 前・後・2前	チリ大学		3		1	2				
	細胞・分子生物学		1 前・後・2前	チリ大学		5		1	1				
	ビッグデータ解析学		1 前・後・2前	東京医科歯科大学		1		2			1		3
	消化管外科学研究概論		1後	東京医科歯科大学		4		1					
	総合外科学研究概論		1後	東京医科歯科大学		4		1					
	小計(11科目)	-	-	-	0	44	0	7	7	0	2	0	3

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目群 応用科目	細胞・分子生物学上級		1 前・後・2前	チリ大学		3		1			1		
	器官系統特殊生理病理学		1 前・後・2前	チリ大学		5		1					
	細胞分子免疫学		1 前・後・2前	チリ大学		5					1		
	遺伝医学		1 前・後・2前	チリ大学		5		1			1		
	人類生化学		1 前・後・2前	チリ大学		5		2					
	生体医科学における細胞シグナル伝達		1 前・後・2前	チリ大学		3		2					
	診断・臨床研究への応用分子生物学		1 前・後・2前	チリ大学		3			2				
	疫学		1 前・後・2前	チリ大学		3			1				
	バイオインフォマティクス1		1 前・後・2前	チリ大学		2					2		
	バイオインフォマティクス2		1 前・後・2前	チリ大学		2					2		
	機能分子化学		1 前・後・2前	東京医科歯科大学		2		3	2		1		
	疾患予防パブリックヘルス医学概論		1 前・後・2前	東京医科歯科大学		2		5		2			
	臨床腫瘍学研究特論		1 後・2後	東京医科歯科大学		4		1					
	小計(13科目)	-	-	-	0	44	0	15	5	2	6	0	0
研究演習	基礎研究演習		1 前・後・2前	チリ大学	10			1	1		4		
	臨床研究演習		1 前・後・2前	チリ大学	10				2				
		小計(2科目)	-	-	-	20	0	0	1	3	0	4	0
文献ゼミナール	文献ゼミナール		1 前・後・2前	チリ大学	3			5	4		4		
		小計(1科目)	-	-	-	3	0	0	5	4	0	4	0

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	記当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目群 上部消化管外科	上部消化管外科臨床基礎(チリ大学)		1後～2	チリ大学	20			4	2		1		
	上部消化管外科臨床応用(チリ大学)		3～5	チリ大学	27			4	2		1		
	上部消化管外科臨床基礎(東京医科歯科大学)		3～4	東京医科歯科大学	20			1	2	2	2		
	上部消化管外科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)		4～5	東京医科歯科大学	35			1	2	2	2		
	上部消化管外科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)		3・4・5	東京医科歯科大学	8			1	2	2	2		
	小計(5科目)	-	-	-	0	110	0	5	4	2	3	0	0
専門科目群 大腸肛門外科	大腸肛門外科臨床基礎(チリ大学)		1後～2	チリ大学	20			2	3		1		
	大腸肛門外科臨床応用(チリ大学)		3～5	チリ大学	27			2	3		1		
	大腸肛門外科臨床基礎(東京医科歯科大学)		3～4	東京医科歯科大学	20			2	2		2		
	大腸肛門外科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)		4～5	東京医科歯科大学	35			2	2		2		
	大腸肛門外科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)		3・4・5	東京医科歯科大学	8			2	2		2		
	小計(5科目)	-	-	-	0	110	0	4	5	0	3	0	0
専門科目群 胃腸病内科	胃腸病内科臨床基礎(チリ大学)		1後～2	チリ大学	20			3	2		1		
	胃腸病内科臨床応用(チリ大学)		3～5	チリ大学	27			3	2		1		
	胃腸病内科臨床基礎(東京医科歯科大学)		3～4	東京医科歯科大学	20			3	1				
	胃腸病内科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)		4～5	東京医科歯科大学	35			3	1				
	胃腸病内科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)		3・4・5	東京医科歯科大学	8			3	1				
	小計(5科目)	-	-	-	0	110	0	6	3	0	1	0	0
特別研究	特別研究(チリ大学)		3～5	チリ大学	40			8	7		3		
	特別研究(東京医科歯科大学)		3～5	東京医科歯科大学	40			34	11	7	8		
	小計(2科目)	-	-	-	80	0	0	42	18	7	11	0	0
合計(50科目)					104	434	0	48	24	8	20	0	5
卒業要件及び履修方法													
<p>1)修了要件は、本専攻に5年以上在学し、所定の授業科目について191単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。</p> <p>2)修得すべき191単位の履修方法は次のとおりとする。</p> <p>a)共通科目群のうち、必修科目である一般教養科目の初期研究研修(1単位)、研究演習2科目(20単位)、文献ゼミナール1科目(2単位)を修得すること。</p> <p>b)共通科目群のうち、選択科目である一般教養科目1科目(3単位)以上、基礎科目3科目(9単位)以上、応用科目3科目(6単位)以上を修得すること。</p> <p>c)専門科目の「上部消化管外科」、「大腸肛門外科」、「胃腸病内科」の3分野から1分野を選択し、学生の医師資格に応じて選択した分野の指定科目(55単位)(※)を修得すること。</p> <p>※指定科目については以下のとおり</p> <p>①チリ国医師資格を持つ学生の場合、臨床基礎(チリ大学)、臨床応用(チリ大学)及び臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)の3科目。</p> <p>②日本国医師資格を持つ学生の場合、臨床基礎(東京医科歯科大学)、臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)の2科目。</p> <p>d)必修科目である特別研究を2科目(80単位)修得すること。</p> <p>e)上記a)及びb)の合計56単位、並びにc)及びd)の総計191単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること</p> <p>ただし、191単位以上のうち、東京医科歯科大学が開設する授業科目について41単位以上、チリ大学が開設する授業科目について62単位以上修得すること。</p>													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなくなったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には**認可時又は届出時と報告年度2つの表**を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成28年度】

・ 修得単位数が多いため、授業内容が類似している「英語での科学論文ディスカッション」及び「学術英語における文法及び記述コミュニケーションスキル」を「英語での科学論文ディスカッション」の1科目に統合。

・ 担当者の変更のため、「初期研究研修」の専任教員等の配置を「教授8」、「准教授2」、「助教1」から「教授8」、「准教授1」、「助教1」、兼任・兼任の配置を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任3」に変更。

・ 担当者の変更のため、「臨床研究の方法論の基礎」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1」、「准教授3」に変更。

・ 職位及び担当者の変更のため、「バイオインフォマティクス」の専任教員等の配置を「教授2」、「講師2」、「助教1」から「教授2」、「講師0」、「助教1」、兼任・兼任の配置を「兼任・兼任5」から「兼任・兼任7」に変更。

・ 職位の変更のため、「疾患予防パブリックヘルス医学概論」の専任教員等の配置を「教授4」、「准教授1」、「講師2」から「教授5」、「准教授0」、「講師2」に変更。

・ 職位変更及び担当者変更のため、「特別研究(東京医科歯科大学)」の専任教員等の配置を「教授29」、「准教授12」、「講師9」、「助10」から「教授32」、「准教授12」、「講師7」、「助教9」に変更。

【平成29年度】

・ 担当者の変更のため、「初期研究研修」の兼任・兼任の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。

・ チリ大学にて単位数が変更された理由により、「癌に関わる細胞及び分子生物学」の単位数が「4」から「5」に変更。

・ 担当者の変更のため、「臨床研究の方法論の基礎」の専任教員等の配置を「教授1」、「准教授3」から「教授1」、「准教授2」に変更。

・ チリ大学の授業改編のため、「細胞・分子生物学」、「バイオインフォマティクス1」及び「バイオインフォマティクス2」の科目を新たに追加。

・ 担当者変更のため、「臨床研究演習」の専任教員等の配置を「教授1」、「准教授2」から「教授0」、「准教授2」に変更。

・ チリ大学にて単位数が変更された理由により、「文献ゼミナール」の単位数が「2」から「3」に変更。

・ 職位及び担当者変更のため、「文献ゼミナール」の専任教員等の配置を「教授4」、「准教授4」、「助教4」から「教授5」、「准教授4」、「助教4」に変更。

・ 職位変更のため、「上部消化管外科臨床基礎(チリ大学)」及び「上部消化管外科臨床応用(チリ大学)」の専任教員等の配置を「教授3」、「准教授3」、「助教1」から「教授4」、「准教授2」、「助教1」に変更。

・ 職位変更のため、「上部消化管外科臨床基礎(東京医科歯科大学)」、「上部消化管外科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)」及び「上部消化管外科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)」の専任教員等の配置を「教授1」、「准教授1」、「講師1」、「助教4」から「教授1」、「准教授2」、「講師2」、「助教2」に変更。

・ 職位変更のため、「大腸肛門外科臨床基礎(チリ大学)」及び「大腸肛門外科臨床応用(チリ大学)」の専任教員等の配置を「教授2」、「准教授2」、「助教2」から「教授2」、「准教授3」、「助教1」に変更。

・ 職位変更のため、「大腸肛門外科臨床基礎(東京医科歯科大学)」、「大腸肛門外科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)」及び「大腸肛門外科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)」の専任教員等の配置を「教授1」、「准教授2」、「講師1」、「助教2」から「教授2」、「准教授3」、「助教2」に変更。

・ 職位変更のため、「特別研究(チリ大学)」の専任教員等の配置を「教授7」、「准教授7」、「助教4」から「教授8」、「准教授7」、「助教3」に変更。

・ 職位変更及び担当者変更のため、「特別研究(東京医科歯科大学)」の専任教員等の配置を「教授32」、「准教授12」、「講師7」、「助教9」から「教授32」、「准教授13」、「講師7」、「助教8」に変更。

【平成30年度】

・ チリ大学で英語科目の内容を充実させるため、単位数を変更し、「学術英語における文法及び記述コミュニケーションスキル」の科目を新たに追加。

・ 担当者変更のため、「初期研究研修」の専任教員等の配置を「教授8」、「准教授1」、「助教1」から「教授8」、「准教授0」、「助教1」に変更。

・ 担当者変更のため、「癌に関わる細胞及び分子生物学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1」、「准教授1」に変更。

・ 東京医科歯科大学の大学院改組により、「バイオインフォマティクス」を再編成し、科目名称を「ビッグデータ解析学」とし、単位数が「2」から「1」、専任教員の配置を「教授2」、「講師2」、「助教1」から「教授2」、「助教1」、兼任・兼任の配置を「兼任・兼任7」から「兼任・兼任3」に変更。

・ 担当者変更のため、「大腸肛門外科臨床基礎(東京医科歯科大学)」、「大腸肛門外科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)」及び「大腸肛門外科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)」の専任教員等の配置を「教授1」、「准教授3」、「助教2」から「教授2」、「准教授2」、「助教2」に変更。

・ 担当者変更のため、「胃腸病内科臨床基礎(東京医科歯科大学)」、「胃腸病内科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)」、「胃腸病内科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)」の専任教員等を「教授3」、「准教授2」から「教授3」、「准教授1」に変更。

・ 東京医科歯科大学で科目を充実させるため、「消化管外科学研究概論」、「総合外科学研究概論」及び「臨床腫瘍学研究特論」の科目を新たに追加。

・ 職位変更及び担当者変更のため、「特別研究(東京医科歯科大学)」の専任教員等の配置を「教授32」、「准教授13」、「講師7」、「助教8」から「教授34」、「准教授11」、「講師7」、「助教8」に変更。

【令和元年度】

・ 担当者変更のため、「初期研究研修」の専任教員等の配置を「教授8」、「准教授0」、「助教1」、「兼任・兼任2」から「教授10」、「准教授1」、「助教0」、「兼任・兼任0」に変更。

・ チリ大学で科目を充実させるため、「生物統計学Ⅱ」及び「研究の生体倫理」の科目を新たに追加。

・ 担当者変更のため、「ビッグデータ解析学」の専任教員等の配置を「教授2」、「助教1」、「兼任・兼任3」から「教授1」、「助教1」、「兼任・兼任4」に変更。

・ 東京医科歯科大学で科目を充実させるため、「先制医歯理工学概論Ⅰ」、「先制医歯理工学概論Ⅱ」、「疾患生命科学特論」及び「データサイエンス特論Ⅰ」の科目を新たに追加。

・ 担当者変更のため、「機能分子化学」の専任教員等の配置を「教授3」、「准教授2」、「助教1」から「教授3」、「准教授0」、「助教1」に変更。

・ 担当者変更のため、「疾患予防パブリックヘルス医学概論」の専任教員等の配置を「教授5」、「講師2」、「助教0」から「教授5」、「講師2」、「助教1」に変更。

・ 担当者変更のため、「文献ゼミナール」の専任教員等の配置を「教授5」、「助教4」から「教授4」、「准教授4」、「助教4」に変更。

・ 担当者変更のため、「上部消化管外科臨床基礎(チリ大学)」及び「上部消化管外科臨床応用(チリ大学)」の専任教員等の配置を「教授4」、「准教授2」、「助教1」から「教授3」、「准教授2」、「助教1」に変更。

・ 担当者変更のため、「上部消化管外科臨床基礎(東京医科歯科大学)」、「上部消化管外科臨床応用Ⅰ(東京医科歯科大学)」及び「上部消化管外科臨床応用Ⅱ(東京医科歯科大学)」の専任教員等の配置を「教授1」、「准教授2」、「講師2」、「助教2」から「教授0」、「准教授2」、「講師3」、「助教2」に変更。

・ 担当者変更のため、「大腸肛門外科臨床基礎(チリ大学)」及び「大腸肛門外科臨床応用(チリ大学)」の専任教員等の配置を「教授2」、「准教授3」、「助教1」から「教授1」、「准教授3」、「助教1」に変更。

・ 担当者変更のため、「特別研究(チリ大学)」の専任教員等の配置を「教授8」、「准教授7」、「助教3」から「教授7」、「准教授7」、「助教3」に変更。

・ 担当者変更のため、「特別研究(東京医科歯科大学)」の専任教員等の配置を「教授34」、「准教授11」、「講師7」、「助教8」から「教授38」、「准教授9」、「講師6」、「助教7」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

	設置時の計画				変更状況				備考
	必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
東京医科歯科大学	2 科目	12 科目	0 科目	14 科目	2 科目 [0]	19 科目 [7]	0 科目 [0]	21 科目 []	
チリ大学	4 科目	26 科目	0 科目	30 科目	4 科目 [0]	31 科目 [5]	0 科目 [0]	35 科目 []	
共同開設科目	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目	0 科目 [0]	0 科目 [0]	0 科目 [0]	0 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1 科目減の場合：△ 1)

(3) 未開講科目

番号	開設大学	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
			該当なし				

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	開設大学	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	チリ大学	学術英語における文法及び記述コミュニケーションスキル	3	1年前・後・2前	一般	選択	「英語での科学論文ディスカッション」と統合したため(28)

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

修得単位数が多いことから、授業内容が類似している「学術英語における文法及び記述コミュニケーションスキル」を「英語での科学論文ディスカッション」へ統合することとした。指導教員を通じて学生へ充分に説明を行うとともに、選択科目であるため学生及び専攻の運営に支障はない。(28)

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{44} = \boxed{2.27}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容					備考		
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	77,695㎡	0㎡	0㎡	77,695㎡				
	運動場用地	19,972㎡	0㎡	0㎡	19,972㎡				
	小 計	97,667㎡	0㎡	0㎡	97,667㎡				
	そ の 他	13,929㎡	0㎡	0㎡	13,929㎡				
	合 計	111,596㎡	0㎡	0㎡	111,596㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		125,398㎡ (125,398㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	125,398㎡ (125,398㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
		83室	52室	556室	2室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		平成31年4月 専任教授1名を新規採用 のため(元)		
		東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻			16 15 室				
(5)図書・設備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	専攻単位での特定不能な ため、申請大学全体の数
	医歯理工保健学 専攻	317,937 [139,687] (317,937 [139,687])	3,721 [2,062] (3,721 [2,062])	8,391 [7,100] (8,391 [7,100])	1,449 (1,449)	497 (497)	55,862 (55,862)		
	計	317,937 [139,687] (317,937 [139,687])	3,721 [2,062] (3,721 [2,062])	8,391 [7,100] (8,391 [7,100])	1,449 (1,449)	497 (497)	55,862 (55,862)		
(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		5,513㎡		433席		377,000冊			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		1,662㎡		テニスコート、プール、武道館、柔剣道場、弓道場					
(8)経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	— 千円	— 千円	図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円	
		共 同 研 究 費 等	— 千円	— 千円	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要			—					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ※国際連携学科等に係る申請大学の状況を記載し、連携外国大学の状況は含めないでください。
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
- なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	東 京 医 科 歯 科 大 学 大 学 院									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
医歯学総合研究科 (修士課程) 医歯理工保健学専攻	2	131	—	257	修士 (医科学) (歯科学) (理学) (工学) (保健学) (口腔保健学) (医療管理学) (医療政策学) (グローバル健康医学)	1.02	H30	H30	東京都文京区湯島1-5-45	
医歯理工学専攻	2	—	—	—	修士 (医科学) (歯科学) (理学) (工学) (口腔保健学) (医療管理学) (医療政策学)	—	—	H24		平成30年度より 学生募集停止
(博士課程) 医歯学専攻	4	181	—	724	博士 (医学) (歯学) (数理医科学) (学術)	1.22	H30	H30		
生命理工医療科学専攻	3	25	—	75	博士 (理学) (工学) (保健学)	0.72	H30	H30		
医歯学系専攻	4	—	—	—	博士 (医学) (歯学) (学術)	—	—	H24		平成30年度より 学生募集停止
生命理工学系専攻	3	—	—	—	博士 (理学) (工学)	—	—	H24		平成30年度より 学生募集停止
口腔機能再構築学系専攻	4	—	—	—	博士 (医学) (歯学) (学術)	—	—	H12		平成24年度より 学生募集停止
顎顔面顎部機能再建学 系専攻	4	—	—	—	博士 (医学) (歯学) (学術)	—	—	H11		平成24年度より 学生募集停止
生体支持組織学系専攻	4	—	—	—	博士 (医学) (歯学) (学術)	—	—	H12		平成24年度より 学生募集停止
環境社会医歯学系専攻	4	—	—	—	博士 (医学) (歯学) (学術)	—	—	H12		平成24年度より 学生募集停止
老化制御学系専攻	4	—	—	—	博士 (医学) (歯学) (学術)	—	—	H12		平成24年度より 学生募集停止
全人的医療開発学系専攻	4	—	—	—	博士 (医学) (歯学) (学術)	—	—	H11		平成24年度より 学生募集停止

認知行動医学系専攻	4	—	—	—	博士 (医学) (歯学) (学術)	—	—	H11		平成24年度より 学生募集停止
生体環境応答学系専攻	4	—	—	—	博士 (医学) (歯学) (学術)	—	—	H12		平成24年度より 学生募集停止
器官システム制御学系 専攻	4	—	—	—	博士 (医学) (歯学) (学術)	—	—	H12		平成24年度より 学生募集停止
先端医療開発学系専攻	4	—	—	—	博士 (医学) (歯学) (学術)	—	—	H12		平成24年度より 学生募集停止
東京医科歯科大学・チ リ大学国際連携医学系 専攻	5	3	—	15	博士 (医学)	0.33	H28	H28		
東京医科歯科大学・ チュラロンコーン大学 国際連携歯学系専攻	5	3	—	15	博士 (歯学)	0.75	H28	H28		平成28年度8月開 設
保健衛生学研究科 (博士課程(前期)) 生体検査科学専攻	2	—	—	—	修士 (保健学)	—	—	H13	東京都文京区湯 島1-5-45	平成30年度より 学生募集停止
(博士課程(後期)) 総合保健看護学専攻	3	—	—	—	博士 (看護学)	—	—	H13		平成28年度より 学生募集停止
生体検査科学専攻	3	—	—	—	博士 (保健学)	—	—	H13		平成30年度より 学生募集停止
(博士課程) 看護先進科学専攻	5	13	—	65	博士 (看護学)	0.90	—	H26		
共同災害看護学専攻	5	2	—	10	博士 (看護学)	0.80	—	H26		
大 学 の 名 称	東 京 医 科 歯 科 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
医学部 医学科	年 6	人 101	年次 人 2年次 5	人 631	学士 (医学)	1.00	—	S26	東京都文京区湯 島1-5-45	
保健衛生学科	4	90		360	学士 (看護学) (保健学)	1.01	—	H元		
歯学部 歯学科	6	53		318	学士 (歯学)	0.99	—	S26		
口腔保健学科	4	32	2年次 5 3年次 6	155	学士 (口腔保健学)	1.03	—	H16		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

(1) 一① 担当教員表

＜東京医科歯科大学＞

【認可時又は届出時】

【認可時又は届出時】		【平成28年度】		【平成29年度】		【平成30年度】		【令和元年度】			
主任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任（卒業）年月＞ 保有学位等＞	主任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任（卒業）年月＞ 保有学位等＞	主任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任（卒業）年月＞ 保有学位等＞	主任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任（卒業）年月＞ 保有学位等＞
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	北川 昌伸 (59) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	北川 昌伸 (59) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	北川 昌伸 (61) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	北川 昌伸 (62) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)
		疾患予防パブリックヘルス医学概論 胃腸病内科臨床基礎 胃腸病内科臨床応用Ⅰ 胃腸病内科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			疾患予防パブリックヘルス医学概論 胃腸病内科臨床基礎 胃腸病内科臨床応用Ⅰ 胃腸病内科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			疾患予防パブリックヘルス医学概論 胃腸病内科臨床基礎 胃腸病内科臨床応用Ⅰ 胃腸病内科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			疾患予防パブリックヘルス医学概論 胃腸病内科臨床基礎 胃腸病内科臨床応用Ⅰ 胃腸病内科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)
専	教授	植竹 宏之 (52) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	植竹 宏之 (52) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	植竹 宏之 (54) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	植竹 宏之 (55) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)
		大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 胃腸病内科臨床基礎 胃腸病内科臨床応用Ⅰ 胃腸病内科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 胃腸病内科臨床基礎 胃腸病内科臨床応用Ⅰ 胃腸病内科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 総合外科学研究概論 大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 胃腸病内科臨床基礎 胃腸病内科臨床応用Ⅰ 胃腸病内科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 総合外科学研究概論 大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 胃腸病内科臨床基礎 胃腸病内科臨床応用Ⅰ 胃腸病内科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)
専	教授	塙 隆夫 (58) ＜平成28年4月＞ 博士(歯学) 博士(工学)	専	教授	塙 隆夫 (58) ＜平成28年4月＞ 博士(歯学) 博士(工学)	専	教授	塙 隆夫 (60) ＜平成28年4月＞ 博士(歯学) 博士(工学)	専	教授	塙 隆夫 (61) ＜平成28年4月＞ 博士(歯学) 博士(工学)
		初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)
専	教授	仁科 博史 (54) ＜平成28年4月＞ 博士(理学)	専	教授	仁科 博史 (54) ＜平成28年4月＞ 博士(理学)	専	教授	仁科 博史 (56) ＜平成28年4月＞ 博士(理学)	専	教授	仁科 博史 (57) ＜平成28年4月＞ 博士(理学)
		初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)
専	教授	田賀 哲也 (56) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	田賀 哲也 (56) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	田賀 哲也 (58) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	田賀 哲也 (59) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)
		初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)
専	教授	木下 淳博 (53) ＜平成28年4月＞ 博士(歯学)	専	教授	木下 淳博 (53) ＜平成28年4月＞ 博士(歯学)	専	教授	木下 淳博 (55) ＜平成28年4月＞ 博士(歯学)	専	教授	木下 淳博 (56) ＜平成28年4月＞ 博士(歯学)
		初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)
専	教授	田中 敏博 (50) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	田中 敏博 (50) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	田中 敏博 (52) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	田中 敏博 (53) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)
		バイオインフォマティクス 特別研究(東京医科歯科大学) 初期研究研修			バイオインフォマティクス 特別研究(東京医科歯科大学) 初期研究研修			バイオインフォマティクス 特別研究(東京医科歯科大学) 初期研究研修 ビッグデータ解析学 特別研究(東京医科歯科大学) 初期研究研修			バイオインフォマティクス 特別研究(東京医科歯科大学) 初期研究研修 ビッグデータ解析学 特別研究(東京医科歯科大学) 初期研究研修
専	教授	石川 俊平 (40) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	石川 俊平 (40) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	石川 俊平 (42) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	非常勤講師	石川 俊平 (43) ＜平成31年4月＞ 博士(医学)
		バイオインフォマティクス 特別研究(東京医科歯科大学)			バイオインフォマティクス 特別研究(東京医科歯科大学)			ビッグデータ解析学 特別研究(東京医科歯科大学)			ビッグデータ解析学 特別研究(東京医科歯科大学)
専	教授	玉村 啓和 (51) ＜平成28年4月＞ 博士(薬学)	専	教授	玉村 啓和 (51) ＜平成28年4月＞ 博士(薬学)	専	教授	玉村 啓和 (53) ＜平成28年4月＞ 博士(薬学)	専	教授	玉村 啓和 (54) ＜平成28年4月＞ 博士(薬学)
		機能分子化学 特別研究(東京医科歯科大学)			機能分子化学 特別研究(東京医科歯科大学)			機能分子化学 特別研究(東京医科歯科大学)			機能分子化学 特別研究(東京医科歯科大学)
専	教授	影近 弘之 (55) ＜平成28年4月＞ 博士(薬学)	専	教授	影近 弘之 (55) ＜平成28年4月＞ 博士(薬学)	専	教授	影近 弘之 (57) ＜平成28年4月＞ 博士(薬学)	専	教授	影近 弘之 (58) ＜平成28年4月＞ 博士(薬学)
		機能分子化学 特別研究(東京医科歯科大学)			機能分子化学 特別研究(東京医科歯科大学)			機能分子化学 特別研究(東京医科歯科大学)			機能分子化学 特別研究(東京医科歯科大学)
専	教授	細谷 孝充 (49) ＜平成28年4月＞ 博士(理学)	専	教授	細谷 孝充 (49) ＜平成28年4月＞ 博士(理学)	専	教授	細谷 孝充 (51) ＜平成28年4月＞ 博士(理学)	専	教授	細谷 孝充 (52) ＜平成28年4月＞ 博士(理学)
		機能分子化学 特別研究(東京医科歯科大学)			機能分子化学 特別研究(東京医科歯科大学)			機能分子化学 特別研究(東京医科歯科大学)			機能分子化学 特別研究(東京医科歯科大学)
専	教授	山岡 昇司 (58) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	山岡 昇司 (58) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	山岡 昇司 (60) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)	専	教授	山岡 昇司 (61) ＜平成28年4月＞ 博士(医学)
		初期研究研修 疾患予防パブリックヘルス医学概論 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 疾患予防パブリックヘルス医学概論 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 疾患予防パブリックヘルス医学概論 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 疾患予防パブリックヘルス医学概論 特別研究(東京医科歯科大学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	原 正幸 (58) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	原 正幸 (59) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	原 正幸 (60) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	原 正幸 (61) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	原 正幸 (62) <平成28年4月> 博士(医学)
		初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)
専			兼担	教授	金井 正美 (54) <平成28年4月> 博士(医学)	兼担	教授	金井 正美 (55) <平成28年4月> 博士(医学)	兼担	教授	金井 正美 (56) <平成28年4月> 博士(医学)	専	教授	金井 正美 (57) <平成31年4月> 博士(医学)
					初期研究研修			初期研究研修			初期研究研修			初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)
専	准教授	中村 桂子 (56) <平成28年4月> 博士(医学)	専	教授	中村 桂子 (57) <平成28年4月> 博士(医学)	専	教授	中村 桂子 (58) <平成28年4月> 博士(医学)	専	教授	中村 桂子 (59) <平成28年4月> 博士(医学)	専	教授	中村 桂子 (60) <平成28年4月> 博士(医学)
		疾患予防パブリックヘルス医学 概論 特別研究(東京医科歯科大学)			疾患予防パブリックヘルス医学 概論 特別研究(東京医科歯科大学)			疾患予防パブリックヘルス医学 概論 特別研究(東京医科歯科大学)			疾患予防パブリックヘルス医学 概論 特別研究(東京医科歯科大学)			疾患予防パブリックヘルス医学 概論 特別研究(東京医科歯科大学)
専	准教授	井上 明宏 (51) <平成28年4月> 博士(学術)	専			専			専			専		
		特別研究(東京医科歯科大学)												
専			専	講師	山口 久美子 (40) <平成28年4月> 博士(医学)	専	講師	山口 久美子 (41) <平成28年4月> 博士(医学)	専	講師	山口 久美子 (42) <平成28年4月> 博士(医学)	専	講師	山口 久美子 (43) <平成28年4月> 博士(医学)
					特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)
専	准教授	増田 貴夫 (54) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	増田 貴夫 (55) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	増田 貴夫 (56) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	増田 貴夫 (57) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	増田 貴夫 (58) <平成28年4月> 博士(医学)
		初期研究研修 特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)
専	准教授	杉内 友理子 (54) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	杉内 友理子 (55) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	杉内 友理子 (56) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	杉内 友理子 (57) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	杉内 友理子 (58) <平成28年4月> 博士(医学)
		特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)
専	准教授	小林 宏寿 (47) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授		専	准教授		専	准教授		専	准教授	
		大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)												
専			専	准教授	安野 正道 (56) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	安野 正道 (57) <平成28年4月> 博士(医学)	専			専	教授	綱笠 祐介 (45) <平成29年10月> 博士(医学)
					初期研究研修 大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			初期研究研修 大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)						消化管外科学研究概論 大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学) 胃腸病内科臨床基礎 胃腸病内科臨床応用Ⅰ 胃腸病内科臨床応用Ⅱ
専	准教授	石黒 めぐみ (42) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	石黒 めぐみ (42) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	石黒 めぐみ (43) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	石黒 めぐみ (44) <平成28年4月> 博士(医学)	専	准教授	石黒 めぐみ (45) <平成28年4月> 博士(医学)
		大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)
専			専	准教授		専	准教授		専	准教授		専	准教授	工藤 敏文 (61) <平成31年4月> 博士(医学)
														大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
専(調)	助教	担当授業科目名	専(調)	助教	担当授業科目名	専(調)	助教	担当授業科目名	専(調)	助教	担当授業科目名
		小田 栢 智之 (37) <平成28年4月> 学士(医学)			小田 栢 智之 (37) <平成28年4月> 学士(医学)			小田 栢 智之 (38) <平成28年4月> 学士(医学)			小田 栢 智之 (39) <平成28年4月> 学士(医学)
専	助教	山本 浩平 (37) <平成28年4月> 博士(医学)	専	助教	山本 浩平 (37) <平成28年4月> 博士(医学)	専	助教	山本 浩平 (38) <平成28年4月> 博士(医学)	専	助教	山本 浩平 (39) <平成28年4月> 博士(医学)
		特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)			特別研究(東京医科歯科大学)
専	助教	川田 研部 (45) <平成28年4月> 博士(医学)	専	講師	川田 研部 (45) <平成27年4月> 博士(医学)	専	講師	川田 研部 (46) <平成27年4月> 博士(医学)	専	講師	川田 研部 (48) <平成27年4月> 博士(医学)
		上部消化管外科臨床基礎 上部消化管外科臨床応用Ⅰ 上部消化管外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			上部消化管外科臨床基礎 上部消化管外科臨床応用Ⅰ 上部消化管外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			上部消化管外科臨床基礎 上部消化管外科臨床応用Ⅰ 上部消化管外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			上部消化管外科臨床基礎 上部消化管外科臨床応用Ⅰ 上部消化管外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)
専	助教	東海林 裕 (45) <平成28年4月> 博士(医学)	専	助教	東海林 裕 (45) <平成28年4月> 博士(医学)	専	助教	東海林 裕 (46) <平成28年4月> 博士(医学)	専	助教	東海林 裕 (48) <平成28年4月> 博士(医学)
		上部消化管外科臨床基礎 上部消化管外科臨床応用Ⅰ 上部消化管外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			上部消化管外科臨床基礎 上部消化管外科臨床応用Ⅰ 上部消化管外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			上部消化管外科臨床基礎 上部消化管外科臨床応用Ⅰ 上部消化管外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			上部消化管外科臨床基礎 上部消化管外科臨床応用Ⅰ 上部消化管外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)
専	助教	大槻 将 (40) <平成28年4月> 博士(医学)	専	助教	大槻 将 (40) <平成28年4月> 博士(医学)	専	助教		専	助教	
		上部消化管外科臨床基礎 上部消化管外科臨床応用Ⅰ 上部消化管外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			上部消化管外科臨床基礎 上部消化管外科臨床応用Ⅰ 上部消化管外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)						
						専	助教	谷岡 利朗 (40) <平成29年4月> 学士(医学)			
								上部消化管外科臨床基礎 上部消化管外科臨床応用Ⅰ 上部消化管外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			
						専	助教		専	助教	
専	助教	菊池 章史 (38) <平成28年4月> 博士(医学)	専	助教	菊池 章史 (38) <平成28年4月> 博士(医学)	専	助教	菊池 章史 (39) <平成28年4月> 博士(医学)	専	助教	菊池 章史 (40) <平成28年4月> 博士(医学)
		大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)
専	助教	山内 慎一 (38) <平成28年4月> 博士(医学)	専	助教	山内 慎一 (38) <平成28年4月> 博士(医学)	専	助教	山内 慎一 (39) <平成28年4月> 博士(医学)	専	助教	山内 慎一 (40) <平成28年4月> 博士(医学)
		大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)			大腸肛門外科臨床基礎 大腸肛門外科臨床応用Ⅰ 大腸肛門外科臨床応用Ⅱ 特別研究(東京医科歯科大学)

26

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	非常勤講師	佐藤 健吾 (43) ＜平成28年4月＞ 博士(工学)	兼任	非常勤講師	佐藤 健吾 (43) ＜平成28年4月＞ 博士(工学)	兼任	非常勤講師	佐藤 健吾 (44) ＜平成28年4月＞ 博士(工学)						
		バイオインフォマティクス			バイオインフォマティクス			バイオインフォマティクス						
兼任	非常勤講師	田中 紀子 (40) ＜平成28年4月＞ 博士(保健学)	兼任	非常勤講師	田中 紀子 (40) ＜平成28年4月＞ 博士(保健学)	兼任	非常勤講師	田中 紀子 (41) ＜平成28年4月＞ 博士(保健学)	兼任	非常勤講師	田中 紀子 (42) ＜平成28年4月＞ 博士(保健学)	兼任	非常勤講師	田中 紀子 (43) ＜平成28年4月＞ 博士(保健学)
		バイオインフォマティクス			バイオインフォマティクス			バイオインフォマティクス			ビッグデータ解析学			ビッグデータ解析学
兼任	非常勤講師	武田 浩一 (56) ＜平成28年4月＞ 博士(情報学)												
		バイオインフォマティクス												
			兼任	非常勤講師	井元 清哉 (43) ＜平成28年4月＞ 博士(数理学)	兼任	非常勤講師	井元 清哉 (44) ＜平成28年4月＞ 博士(数理学)	兼任	非常勤講師	井元 清哉 (45) ＜平成28年4月＞ 博士(数理学)	兼任	非常勤講師	井元 清哉 (46) ＜平成28年4月＞ 博士(数理学)
					バイオインフォマティクス			バイオインフォマティクス			ビッグデータ解析学			ビッグデータ解析学

【認可時又は届出時】

【平成28年度】		氏 名 (年 齢)	職 名	専任・兼任・兼任の別
＜就任（予定）年月＞				
		担当授業科目名		
外国	教授相当	Andrew Quest	＜平成28年4月＞	
		細胞・分子生物学上級基礎研究演習 生体医科学における細胞シグナル伝達 胃腸病内科臨床基礎（チリ大学） 胃腸病内科臨床応用（チリ大学） 特別研究（チリ大学）		
外国	教授相当	Andrés Couve	＜平成28年4月＞	
		細胞生理学		
外国	教授相当	Enrique Castellón	＜平成28年4月＞	
		癌に関わる細胞及び分子生物学 上部消化管外科臨床基礎（チリ大学） 上部消化管外科臨床応用（チリ大学） 特別研究（チリ大学）		
外国	教授相当	Lucía Cifuentes	＜平成28年4月＞	
		遺伝医学		
外国	教授相当	Ramón Rodrigo	＜平成28年4月＞	
		器官系統特殊生理病理学		
外国	教授相当	Luis Videla	＜平成28年4月＞	
		人類生化学		
外国	教授相当	Virginia Fernandez	＜平成28年4月＞	
		人類生化学		
外国	教授相当	Sergio Lavandero	＜平成28年4月＞	
		生体医科学における細胞シグナル伝達 大腸肛門外科臨床基礎（チリ大学） 大腸肛門外科臨床応用（チリ大学） 特別研究（チリ大学）		
外国	教授相当	Lisette Leyton	＜平成28年4月＞	
		英語での科学論文ディスカッション		
外国	教授相当	Mario Uribe	＜平成28年4月＞	
		文献ゼミナール 上部消化管外科臨床基礎（チリ大学） 上部消化管外科臨床応用（チリ大学） 特別研究（チリ大学）		
外国	教授相当	Carlos Castillo	＜平成28年4月＞	
		臨床研究の方法論の基礎 臨床研究演習		
外国	教授相当	Carlos Carvajal	＜平成28年4月＞	
		文献ゼミナール 上部消化管外科臨床基礎（チリ大学） 上部消化管外科臨床応用（チリ大学） 大腸肛門外科臨床基礎（チリ大学） 大腸肛門外科臨床応用（チリ大学） 特別研究（チリ大学）		
外国	教授相当	Jaime Poniachik	＜平成28年4月＞	
		文献ゼミナール 胃腸病内科臨床基礎（チリ大学） 胃腸病内科臨床応用（チリ大学） 特別研究（チリ大学）		

専任・兼任・兼任の別		職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
			担当授業科目名
外国	教授相当	Andrew Quest	＜平成28年4月＞
		細胞・分子生物学上級基礎研究演習	
		生体変化学における細胞シグナル伝達	
		腎臓病内科臨床基礎（チリ大学） 腎臓病内科臨床応用（チリ大学） 特別研究（チリ大学）	
外国	教授相当	Andrés Couve	＜平成28年4月＞
		細胞生理学	
		Enrique Castellón	＜平成28年4月＞
外国	教授相当	細胞・分子生物学	
		癌に関わる細胞及び分子生物学上部消化管外科臨床基礎（チリ大学） 上部消化管外科臨床応用（チリ大学） 特別研究（チリ大学）	
外国	教授相当	Lucía Cifuentes	＜平成28年4月＞
		遠征医学	
外国	教授相当	Ramón Rodrigo	＜平成28年4月＞
		器官系統特殊生理病理学	
外国	教授相当	Luis Videla	＜平成28年4月＞
		人類生化学	
外国	教授相当	Virginia Fernandez	＜平成28年4月＞
		人類生化学	
外国	教授相当	Sergio Lavandero	＜平成28年4月＞
		生体変化学における細胞シグナル伝達	
		大腸肛門外科臨床基礎（チリ大学） 大腸肛門外科臨床応用（チリ大学） 特別研究（チリ大学）	
外国	教授相当	Lisette Leyton	＜平成28年4月＞
		英語での科学論文ディスカッション 学術英語における文法及び記述コミュニケーションスキル	
外国	教授相当	Mario Uribe	＜平成28年4月＞
		文献ゼミナール	
		上部消化管外科臨床基礎（チリ大学） 上部消化管外科臨床応用（チリ大学） 大腸肛門外科臨床基礎（チリ大学） 大腸肛門外科臨床応用（チリ大学） 特別研究（チリ大学）	
外国	教授相当	Carlos Carvajal	＜平成28年4月＞
		文献ゼミナール	
		上部消化管外科臨床基礎（チリ大学） 上部消化管外科臨床応用（チリ大学） 大腸肛門外科臨床基礎（チリ大学） 大腸肛門外科臨床応用（チリ大学） 特別研究（チリ大学）	
外国	教授相当	Jaime Poniachik	＜平成28年4月＞
		文献ゼミナール 腎臓病内科臨床基礎（チリ大学） 腎臓病内科臨床応用（チリ大学） 特別研究（チリ大学）	

(1) ②担当教員表に関する変更内容

＜東京医科歯科大学＞

【平成28年度】

・平成28年4月に「初期研究研修」の担当者を専任教員の原正幸准教授から、兼任の金井正美教授に変更。
・平成28年4月に「初期研究研修」の担当者を専任教員の塙隆夫教授、増田貴夫准教授、兼任の井関祥子教授から、専任教員の植竹宏之教授に変更。
・平成28年4月に「初期研究研修」の担当者を兼任の笠間健嗣准教授から、専任教員の安野正道准教授に変更。
・平成28年4月に「初期研究研修」の担当者を兼任のCannell David Richard准教授から、兼任の島山一教授に変更。
・平成28年3月に専任教員の井上明宏准教授が他大学へ転出したため、「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者を専任教員の山口久美子講師に変更。
・平成27年6月に専任教員の小林宏寿准教授が他大学へ転出したため、「大腸肛門外科臨床基礎」、「大腸肛門外科臨床応用Ⅰ」、「大腸肛門外科臨床応用Ⅱ」及び「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者を専任教員の安野正道准教授に変更。
・平成28年3月に専任教員の宮脇豊助教が自己都合により退職したため、「上部消化管外科臨床基礎」、「上部消化管外科臨床応用Ⅰ」、「上部消化管外科臨床応用Ⅱ」及び「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者を専任教員の岡田卓也助教に変更。
・平成28年3月に専任教員の岡田随象講師が他大学へ転出したため、「バイオイノフォーマティクス」は非常勤講師として継続勤務し、「特別研究(東京医科歯科大学)」については担当者を専任教員の藤原武男教授に変更。
・平成27年12月に専任教員の浦山ケビン講師が他大学へ転出したため、「バイオイノフォーマティクス」は非常勤講師として継続勤務し、「特別研究(東京医科歯科大学)」については担当者を専任教員の吉村亮一教授に変更。
・平成28年4月に専任教員の中村桂子准教授が教授に職位が変更。
・平成27年12月に専任教員の井ノ口幹人講師が准教授に職位が変更。
・平成28年4月に専任教員の二村昭元講師が准教授に職位が変更。
・平成27年4月に専任教員の川田研助助教が講師に職位が変更。
・平成28年4月に兼任の重水大智非常勤講師が兼任の講師に職位が変更。
・平成28年4月に兼任の武田浩一非常勤講師から、兼任の井元清哉非常勤講師に変更。

【平成29年度】

・平成28年7月に専任教員の竹田秀教授が自己都合により退職したため、「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者を専任教員の岩永史朗教授に変更。
・平成28年12月に専任教員の犬堀明助教が自己都合により退職したため、「上部消化管外科臨床基礎」、「上部消化管外科臨床応用Ⅰ」、「上部消化管外科臨床応用Ⅱ」及び「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者を専任教員の谷岡朗助助教に変更。
・平成29年4月に「初期研究研修」の担当者を兼任の寺岡弘文非常勤講師から、兼任の金井正美教授に変更。
・平成29年4月に専任教員の石川敏昭講師が准教授に職位が変更。
・平成28年8月に専任教員の岡田卓也助教が講師に職位が変更。

【平成30年度】

・平成30年4月に新規科目の「総合外科学研究概論」及び専任教員の安野正道准教授が他機関へ転出したため、「初期研究研修」の担当者を専任教員の植竹宏之教授に変更。
・平成30年3月に専任教員の荒木昭博准教授が自己都合により退職したため、「胃腸病内科臨床基礎」、「胃腸病内科臨床応用Ⅰ」、「胃腸病内科臨床応用Ⅱ」及び「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者を専任教員の長堀正和准教授に変更。
・平成30年4月に新規科目の「臨床腫瘍学研究特論」及び専任教員の荒木昭博准教授が自己都合により退職したため、「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者に専任教員の三宅智教授が就任。
・平成30年3月に専任教員の安野正道准教授が他機関へ転出したため、新規科目の「消化管外科学研究概論」、「大腸肛門外科臨床基礎」、「大腸肛門外科臨床応用Ⅰ」、「大腸肛門外科臨床応用Ⅱ」及び「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者を専任教員の網笠祐介教授に変更。
・平成30年3月に専任教員の谷岡朗助助教が自己都合により退職したため、「上部消化管外科臨床基礎」、「上部消化管外科臨床応用Ⅰ」、「上部消化管外科臨床応用Ⅱ」及び「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者に専任教員の中川正敏助教が就任。

【令和元年度】

・平成30年11月に専任教員の石川俊平教授が自己都合により退職したため、「ビッグデータ解析学」は非常勤講師として継続勤務し、「特別研究(東京医科歯科大学)」については担当者に専任教員の井関祥子教授が就任。
・平成31年4月より「初期研究研修」の担当者に、専任教員の杉原泉教授の代わりとして専任教員の樺木俊聡教授が就任。
・平成30年11月に専任教員の小嶋一幸教授が自己都合により退職したため、「上部消化管外科臨床基礎」、「上部消化管外科臨床応用Ⅰ」、「上部消化管外科臨床応用Ⅱ」及び「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者に専任教員の徳永正則准教授が就任。また「胃腸病内科臨床基礎」、「胃腸病内科臨床応用Ⅰ」及び「胃腸病内科臨床応用Ⅱ」の担当者を専任教員の網笠祐介教授に変更。
・平成31年3月に専任教員の井ノ口幹人准教授が自己都合により退職したため、「上部消化管外科臨床基礎」、「上部消化管外科臨床応用Ⅰ」、「上部消化管外科臨床応用Ⅱ」及び「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者に専任教員の岡崎聡講師が就任。
・平成31年3月に専任教員の野村涉准教授が自己都合により退職したため、「機能分子化学」の担当者変更。後任は未定。また、「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者を専任教員の石川欽也教授が就任。
・平成31年3月に専任教員の平野智也准教授が自己都合により退職したため、「機能分子化学」の担当者変更。後任は未定。また、「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者に専任教員の石野史敏教授が就任。
・平成30年10月に専任教員の石黒めぐみ准教授が自己都合により退職したため、「大腸肛門外科臨床基礎」、「大腸肛門外科臨床応用Ⅰ」、「大腸肛門外科臨床応用Ⅱ」及び「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者に専任教員の工藤敬文准教授に変更。
・平成31年3月に専任教員の木津喜雅講師が自己都合により退職したため、「疾患予防パブリックヘルス医学概論」の担当者を専任教員の岡田卓也講師及び伊藤泰助教に変更。また「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者に専任教員の樺木俊聡教授が就任。
・平成30年8月に専任教員の鈴木仁美助教が自己都合により退職したため、「初期研究研修」の担当者を専任教員の塙隆夫教授に変更。また、「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者に専任教員の川崎健嗣教授が就任。
・平成31年3月に兼任の島山一教授が定年となったため、「初期研究研修」の担当者を専任教員の長堀正和准教授に変更。
・平成30年9月に専任教員の篠原正浩講師が自己都合により退職したため、「特別研究(東京医科歯科大学)」の担当者を専任教員の金井正美教授が就任。
・平成30年10月に調整教員の小田柿智之助教が自己都合により退職したため、専任教員の伊藤泰助教が就任。
・平成31年4月に新規科目の「データサイエンス特論Ⅰ」の担当者に兼任教員の竹内勝之教授が就任。

＜チリ大学＞

【平成28年度】

・平成28年4月にMauricio Farfán准教授相当が「臨床研究の方法論の基礎」を担当。
・平成28年4月にJuan Pablo Torres准教授相当が「臨床研究の方法論の基礎」を担当。
・平成28年4月にPatricio Burdiles准教授相当が「臨床研究の方法論の基礎」を担当。

【平成29年度】

・平成29年4月にEnrique Castellón教授相当が新規科目の「細胞・分子生物学」を担当。
・平成29年4月に新規科目の「細胞・分子生物学」の担当者としてMaria Cecilia Johnson准教授相当が就任。
・平成28年12月にPatricio Burdiles准教授相当が教授相当に職位が変更。
・平成29年4月にRicardo Verdugo助教相当が新規科目の「バイオイノフォーマティクス1」及び「バイオイノフォーマティクス2」を担当。
・平成29年4月にRodrigo Assar助教相当が新規科目の「バイオイノフォーマティクス1」及び「バイオイノフォーマティクス2」を担当。
・平成28年12月にFrancisco López助教相当が准教授相当に職位が変更。
・平成29年4月に「文献セミナー」の担当者としてPatricio González Hormazábal助教相当が就任。
・平成29年4月にCarlos Castillo教授が死亡したため、「臨床研究の方法論の基礎」及び「臨床研究演習」の担当者変更。後任は未定。

【平成30年度】

・平成30年4月に「癌に関わる細胞及び分子生物学」の担当者としてHéctor Contreras准教授相当が就任。
・平成30年4月にLisette Leyton教授相当が新規科目の「学術英語における文法及び記述コミュニケーションスキル」を担当。

【令和元年度】

・平成30年3月にAndrés Couve教授相当が自己都合により退職したため、「細胞生理学」の担当者としてJimena Sierralta教授相当が就任。
・平成30年3月にCarlos Carvajal教授相当が自己都合により退職したため、「文献セミナー」、「上部消化管外科臨床基礎(チリ大学)」、「上部消化管外科臨床応用(チリ大学)」、「大腸肛門外科臨床基礎(チリ大学)」、「大腸肛門外科臨床応用(チリ大学)」及び「特別研究(チリ大学)」の担当者をMario Uribe教授相当に変更。
・平成30年3月にMercedes Lopez准教授相当が自己都合により退職したため、「免疫学入門」の担当者としてJuan Carlos Aguilón准教授相当が就任。
・平成30年3月にGabriela Díaz准教授相当が自己都合により退職したため、「基礎薬理学」の担当者としてJuan Diego Maya准教授相当が就任。
・平成30年3月にDiego Catalán助教相当が自己都合により退職したため、「細胞分子免疫学」の担当者としてFabiola Osorio助教相当が就任。
・平成31年4月にRodrigo Assar助教相当が新規科目の「生物統計学Ⅱ」を担当。
・平成31年4月にVerónica Allaga Castillo助教相当が就任し、新規科目の「研究の生体倫理」を担当。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 本様式は、当該国際連携学科等に所属し授業科目を担当する専任教員（同一の学部又は研究科内の他の学科又は専攻の専任教員（研究指導教員等）が兼ねて担当する場合も含める）について記入してください。

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
30 名	20 名	研究指導教員数と研究 指導補助教員数を 合わせて60以上 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文科省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学院】

設 置 時 の 計 画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
29	12	9	11	61	38	9	6	8	61
(31)	(11)	(8)	(11)	(61)					
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
50	10	0			53	7	1		
(50)	(10)	0							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)
38	9	6	8	61	38	9	6	8	61
[9]	[Δ3]	[Δ3]	[Δ3]	[0]	[9]	[Δ3]	[Δ3]	[Δ3]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
53	7	1			53	7	1		
[3]	[Δ3]	[1]			[3]	[Δ3]	[1]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年 齢 構 成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{61}{61} = 100\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{61} = 0\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(注)・本様式は、当該国際連携学科等に所属し授業科目を担当する専任教員(同一の学部又は研究科内の他の学科又は専攻の専任教員研究指導教員等)が兼ねて担当する場合も含める)について記入してください。

(3) - ① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	准教授	井上 明宏	H28. 3	必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①	他大学への転出のため退職（28）			
2	准教授	小林 宏寿	H27. 6	選択	大腸肛門外科臨床基礎	①	他機関への転出のため退職（28）			
				選択	大腸肛門外科臨床応用Ⅰ	①				
				選択	大腸肛門外科臨床応用Ⅱ	①				
				必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①				
3	講師	岡田 随象	H28. 3	選択	バイオインフォマティクス	②	他大学への転出のため退職（28）			
必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①								
4	講師	浦山 ケビン	H27. 12	選択	バイオインフォマティクス	②	他大学への転出のため退職（28）			
必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①								
5	助教	宮脇 豊	H27. 3	選択	上部消化管外科臨床基礎	①	自己都合のため退職（28）			
				選択	上部消化管外科臨床応用Ⅰ	①				
				選択	上部消化管外科臨床応用Ⅱ	①				
				必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①				
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）	③の合計数（c）		
5	人	必修	5	科目	必修	5	科目	必修	0	科目
		選択	8	科目	選択	6	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	13	科目	計	11	科目	計	2	科目

- (注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- 「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- 兼任兼任教員が担当する(している)場合は「②」
- 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未就任)の理由
1	教授	竹田 秀	H28. 7	必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①	自己都合のため退職(29)
2	助教	大槻 将	H28. 12	選択	上部消化管外科臨床基礎	①	自己都合のため退職(29)
				選択	上部消化管外科臨床応用Ⅰ	①	
				選択	上部消化管外科臨床応用Ⅱ	①	
				必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①	
3	准教授	荒木 昭博	H30. 3	選択	胃腸病内科臨床基礎	①	自己都合のため退職(30)
				選択	胃腸病内科臨床応用Ⅰ	①	
				選択	胃腸病内科臨床応用Ⅱ	①	
				必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①	
4	准教授	安野 正道	H30. 3	必修	初期研究研修	①	他機関への転出のため退職(30)
				選択	大腸肛門外科臨床基礎	①	
				選択	大腸肛門外科臨床応用Ⅰ	①	
				選択	大腸肛門外科臨床応用Ⅱ	①	
5	助教	谷岡 利朗	H30. 3	必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①	自己都合のため退職(30)
				選択	上部消化管外科臨床基礎	①	
				選択	上部消化管外科臨床応用Ⅰ	①	
				選択	上部消化管外科臨床応用Ⅱ	①	
6	教授	石川 俊平	H30. 11	必修	ビッグデータ解析学	②	自己都合のため退職(元)
				必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①	
7	教授	小嶋 一幸	H30. 11	選択	上部消化管外科臨床基礎	①	自己都合のため退職(元)
				選択	上部消化管外科臨床応用Ⅰ	①	
				選択	上部消化管外科臨床応用Ⅱ	①	
				選択	胃腸病内科臨床基礎	①	
				選択	胃腸病内科臨床応用Ⅰ	①	
				選択	胃腸病内科臨床応用Ⅱ	①	
				必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①	
8	准教授	野村 渉	H31. 3	選択	機能分子化学	③	自己都合のため退職(元)
				必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①	
9	准教授	平野 智也	H31. 3	選択	機能分子化学	③	自己都合のため退職(元)
				必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①	
10	准教授	石黒 めぐみ	H30. 10	選択	大腸肛門外科臨床基礎	①	自己都合のため退職(元)
				選択	大腸肛門外科臨床応用Ⅰ	①	
				選択	大腸肛門外科臨床応用Ⅱ	①	
				必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①	

1 1	准教授	井ノ口 幹人	H30. 11	選択	上部消化管外科臨床基礎	①	自己都合のため退職（元）			
				選択	上部消化管外科臨床応用Ⅰ	①				
				選択	上部消化管外科臨床応用Ⅱ	①				
				必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①				
1 2	講師	木津喜 雅	H30. 10	選択	疾患予防パブリックヘルス医学概論	①	自己都合のため退職（元）			
				必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①				
1 3	講師	篠原 正浩	H30. 9	必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①	自己都合のため退職（元）			
1 4	助教	鈴木 仁美	H30. 8	必修	特別研究(東京医科歯科大学)	①	自己都合のため退職（元）			
1 5	助教	小田柿 智之	H30. 10			①	自己都合のため退職（元）			
合計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
15	人	必修	15	科目	必修	15	科目	必修	0	科目
		選択	28	科目	選択	25	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	43	科目	計	40	科目	計	1	科目

- （注） ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
20	人	必修	20 科目	必修	20 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	36 科目	選択	31 科目	選択	3 科目	選択	2 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	56 科目	計	51 科目	計	3 科目	計	2 科目		

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{20}{61} = 32.78 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
該当なし						

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>就任辞退をした教員が担当していた科目については、不足なく後任補充を行った。また、指導教員を通じて学生へは履修に支障がない旨、十分に説明を行った。(28)</p> <p>辞任した教員が担当していた科目については、不足なく後任補充を行った。また、指導教員を通じて学生へは履修に支障がない旨、十分に説明を行った。(29)</p> <p>辞任した教員が担当していた科目については、不足なく後任補充を行った。また、指導教員を通じて学生へは履修に支障がない旨、十分に説明を行った。(30)</p> <p>辞任した教員が担当していた科目については、不足なく後任補充を行った。また、指導教員を通じて学生へは履修に支障がない旨、十分に説明を行った。(元)</p>

(注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (平成28年)	1. 修了要件191単位は、連携外国大学が求めている一般的な修了要件と比べてもかなり多い修了要件単位数となっているが、本専攻の教育研究目的や人材養成像やそれらを踏まえたカリキュラムポリシーに照らして、当該単位数を履修・修得する必要性を学生に対して丁寧に説明すること。	留意事項 1. 学生への説明については、面接試験で学生に丁寧に説明し意志を確認するとともに、入学後、履修要項で詳細に説明した。また、修了要件単位数が一般的な単位数と比べて多い理由として、講義に加えて行う臨床研修の単位数が多くなっていることが挙げられる。(28)	履行済
認 可 時 (平成28年)	2. 研究指導に係る連携外国大学との責任や役割分担について、東京医科歯科大学側についてはある程度明確にされているが、チリ大学側の内容は不明確であるため、双方の役割分担等を更に明確にし、研究指導に支障が生じないよう準備に万全を期すこと。	留意事項 2. 東京医科歯科大学、チリ大学及びクリニカ・ラス・コンデス（病院）から各3名の教員で構成する学術委員会を設置した。（添付学術委員会名簿参照）(28) 平成28年6月14日に開催された学術委員会において、下記の点について合意した。 ①学生指導に関して3機関の指導教員が連携してメール、スカイプ等を使用して学生指導を行い、学生の意向を確認のもと、主担当教員、副担当教員が等しく責任を持って指導する。 ②プログラムの運営について、本プログラムに関わるすべての事項について、月1回の学術委員会において協議し、両大学の合意の下に運営する。 ③学生が不良行為を行った場合は、滞在している国の法律及び両大学の学則に従うこととした。(29)	履行済 学生の研究等が本格的に始まる2年次後期までに次の点について学術委員会にて検討する。 ①学術委員会が学生の研究指導の方針について責任を持って指導する。 ②指導体制、プログラム運営の責任及び役割分担を明確化する。(28)
認 可 時 (平成28年)	3. 入学資格に国籍を制限していないにもかかわらず、研究指導や履修指導等において国籍を基準として区別する方法は不適切である。入学時の窓口で区別するか、医師資格の国で区別するなど、適切な方法で区別するよう改めること。	留意事項 3. 本件については設置認可申請書を修正し申請したため、対応済みである。 （修正前）原則、チリ人学生の場合はチリ大学の教員が主担当となり、日本人学生の場合は東京医科歯科大学の教員が主担当を務める。 （修正後）原則、チリ国医師資格を持つ学生の場合はチリ大学の教員が主担当となり、日本国医師資格を持つ学生の場合は東京医科歯科大学の教員が主担当を務める。(28)	履行済
認 可 時 (平成28年)	4. 年間の研究指導計画や成績評価基準が不明確であるため、学生が十分に理解できるよう、あらかじめ十分な説明を行うこと。	留意事項 4. 学生の経験及び希望により柔軟な年間研究指導計画を個別に組むため、指導教員が、入学直後の学生との面談で年間の研究指導計画及び成績評価基準について詳細な説明を行った。(28)	履行済

認 可 時 (平成28年)	5. 連携外国大学との調整を行う教員に関する業績等が明らかでないが、調整を行い得る十分な能力を持った者を配置し、連携外国大学との連絡調整に支障をきたすことのないよう十分な体制を構築すること。	留意事項	5. 本国際連携専攻の教育研究分野において十分な臨床経験を持ち、経験に裏付けられた専門的知識や技能を備え、学生の修学上における問題点を総括的に指導できる者を本学のチリ拠点に配置した。 当該調整教員は、平成15年3月に本学医学部医学科を卒業後、関連病院を経て、国立がん研究センターの消化管内視鏡科で内視鏡診断・治療に従事してきた。平成26年11月から本学のチリ拠点に着任し、チリ国を始めとする南米諸国の医師に日本式の内視鏡診断・治療技術並びにその知識を教授するチリ国保健省と連携して実施している「大腸がん早期発見プロジェクト」に携わっており、平成28年4月からは本専攻の調整教員として、チリ国におけるこれまでの活動経験や人脈を活かし、精力的に活動している。 異なる文化的・地理的・歴史的背景を持つ人々と親しい関係を築き、現地の生活も熟知していることから、生活面においても学生を支援できる能力を十分有している。 以上のことから、当該教員は、本国際連携専攻学生への指導や、チリ大学等の教員との連絡調整を行うために必要な能力を十分有していると考えている。 (28)	履行済	
認 可 時 (平成28年)	6. 協定書の締結に当たっては、申請書に示されている内容を確実に反映させること。	留意事項	6. 学術委員会において協定書に則り、本プログラムを運営している。学術委員会は、TV会議を通じて月1回程度開催している。 (4/18に学術委員会を予定していたがチリの大雨のため5/9に延期。) (28)	履行済	
設置計画履行状況 調 査 時 (平成28年)	該当なし				
設置計画履行状況 調 査 時 (平成29年)	該当なし				
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年)	該当なし				

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。） と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を 全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<医歯学総合研究科 東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>①協定書</p> <p>1. Name of the Program Name of the course is “University of Chile and TMDU Joint Degree Doctoral Program in Medical Sciences with mention of a subspecialty” . (1. 専攻名 国際連携医学系専攻)</p> <p>26. Language The language used in this program is English. Spanish or Japanese is a requirement for clinical instruction. (26. 使用言語 英語とする。ただし、臨床教育はスペイン語又は日本語とする。)</p> <p>29. Requirements of Completion (1) In addition to completing the number of credits required by Japanese law and TMDU, students are required to complete the number of credits mandated by Chilean law and UCh. The required credits are listed in the attached document Annex 1. (2) To complete the JD program, students should attend 5 or more years; complete the required number of credits listed in Annex 1; receive necessary research guidance; submit a thesis; and pass a thesis defense and final examination. (29. 修了要件 (1) 修了にあたっては、日本の法令及びTMDU で規定された修得すべき単位数の修了要件を満たすほか、チリの法令及びUCh で規定された単位数の修了要件を満たさなければならない。なお、修得すべき最低単位数については別表 1 のとおりとする。 (2) JD プログラムを修了するためには、本専攻に5年以上在学し、所定の授業科目について前号の別表 1 に掲げる必要単位数以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。)</p> <p>31. Assessment of Performance (1) Grading of each course shall be conducted by the university where said course is implemented. Jointly operated courses shall be conducted by both universities jointly. (2) The teaching staff in charge of each course shall grade the course based on exam, report of research, etc. at the end of semester or academic year. (3) At TMDU, the performance of students shall be graded on a 5-point scale, namely 4, 3, 2, 1 and 0. Only students achieving one of the first four grades will be deemed to have passed the course. (4) At UCh, the performance of students shall be graded on a scale of 1.0~7.0, with students earning a score of 4.0 or higher passing the course. (5) The conversion of grading metrics between both universities is explained in Annex 2. (31. 成績評価 (1) 授業科目の評価は、その科目を開設する大学が行うものとする。ただし、両大学が共同で実施する科目については、両大学が共同で行うものとする。 (2) 各授業科目の評価は、試験又は研究報告等により、授業科目担当教員が学期末又は学年末に行う。 (3) TMDU における各授業科目の成績は、0 から4 までの5種の点数で評価され、「1」以上を合格とする。 (4) UCh における各授業科目の成績は、1.0 から7.0 までの点数で評価され、4.0 以上の点数を合格とする。 (5) 両大学における成績の換算については別表 2 のとおりとする。)</p>	<p>(変更内容)</p> <p>1. Name of the Program Name of the course is “University of Chile and TMDU Joint Degree Doctoral Program in Medical Sciences with mention of a medical specialty” . (1. 専攻名 国際連携医学系専攻)</p> <p>26. Language The language used in this program is English and/or Spanish. Spanish is a requirement to obtain the clinical specialty in Chile and Japanese to obtain the clinical subspecialty in Japan. (26. 使用言語 英語あるいはスペイン語とする。ただし、チリにおける専門医の資格(Specialty)を得るためにはスペイン語、日本におけるサブスペシャリティ領域専門医資格(Subspecialty)を得るためには日本語を必要とする。)</p> <p>29. Requirements of Completion (1) In addition to completing the number of credits required by Japanese law and TMDU, students are required to complete the number of credits mandated by Chilean law and UCh. The required credits are specified separately by Memorandum of Agreement (hereinafter referred to as “MOA”). (2) To complete the JD program, students should attend 5 or more years; complete the required number of credits listed in MOA; receive necessary research guidance; submit a thesis; and pass a thesis defense and final examination. (29. 修了要件 (1) 修了にあたっては、日本の法令及びTMDUで規定された修得すべき単位数の修了要件を満たすほか、チリの法令及びUChで規定された単位数の修了要件を満たさなければならない。なお、修得すべき最低単位数についてはMemorandum of Agreement (以下MOA)で別に定める。 (2) JD プログラムを修了するためには、本専攻に5年以上在籍し、所定の授業科目について前号のMOAに掲げる必要単位数以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。)</p> <p>31. Assessment of Performance (1) Grading of each course shall be conducted by the university where said course is implemented. Jointly operated courses shall be conducted by both universities jointly. (2) The teaching staff in charge of each course shall grade the course based on exam, report of research, etc. at the end of semester or academic year. (3) At TMDU, the performance of students shall be graded on a 5-point scale, namely 4, 3, 2, 1 and 0. Only students achieving one of the first four grades will be deemed to have passed the course. (4) At UCh, the performance of students shall be graded on a scale of 1.0~7.0, with students earning a score of 4.0 or higher passing the course. (5) The conversion of grading metrics between both universities is specified separately by MOA. (31. 成績評価 (1) 授業科目の評価は、その科目を開設する大学が行うものとする。ただし、両大学が共同で実施する科目については、両大学が共同で行うものとする。 (2) 各授業科目の評価は、試験又は研究報告等により、授業科目担当教員が学期末又は学年末に行う。 (3) TMDUにおける各授業科目の成績は、0から4までの5種の点数で評価され、「1」以上を合格とする。 (4) UChにおける各授業科目の成績は、1.0から7.0までの点数で評価され、4.0以上の点数を合格とする。 (5) 両大学における成績の換算についてはMOAに別に定めることとする。)</p>

署名者 【東京医科歯科大学】 President Dr. Yasuyuki Yoshizawa Tokyo Medical and Dental University (TMDU) (学長 吉澤靖之 東京医科歯大学 (TMDU)) Dean, Faculty of Medicine Dr. Yoshinobu Eishi Tokyo Medical and Dental University (TMDU) (医学部長 江石義信 東京医科歯大学 (TMDU)) 【チリ大学】 Rector Dr. Ennio Vivaldi University of Chile (UCh) (学長 Dr. Ennio Vivaldi チリ大学 (UCh)) Dean, Faculty of Medicine Dr. Manuel Kukuljan University of Chile (UCh) (医学部長 Dr. Manuel Kukuljan チリ大学 (UCh)) CEO Mr. Gonzalo Grebe Clinica Las Condes (CLC) (CEO Mr. Gonzalo Grebe クリニカラスコンデス (CLC)) Academic Director Dr. Patricio Burdiles Clinica Las Condes (CLC) (アカデミックディレクター Dr. Patricio Burdiles クリニカラスコンデス (CLC))	署名者 【東京医科歯科大学】 Dr. Yasuyuki Yoshizawa President Tokyo Medical and Dental University (TMDU) (学長 吉澤靖之 東京医科歯大学 (TMDU)) Dr. Yoshinobu Eishi Dean, Faculty of Medicine Tokyo Medical and Dental University (TMDU) (医学部長 江石義信 東京医科歯大学 (TMDU)) 【チリ大学】 Dr. Ennio Vivaldi Rector University of Chile (UCh) (学長 Dr. Ennio Vivaldi チリ大学 (UCh)) Dr. Manuel Kukuljan Dean, Faculty of Medicine University of Chile (UCh) (医学部長 Dr. Manuel Kukuljan チリ大学 (UCh)) Mr. Gonzalo Grebe CEO Clinica Las Condes (CLC) (CEO Mr. Gonzalo Grebe クリニカラスコンデス (CLC)) Dr. Juan Pablo Torres Research Director Clinica Las Condes (CLC) (リサーチディレクター Dr. Juan Pablo Torres クリニカラスコンデス (CLC)) (28)
--	--

<p>② 協議の場</p> <p>個々の大学院生に対する日常の学術活動の調整は、東京医科歯科大学、チリ大学およびCLC から少なくとも1名以上の教員（教授あるいは准教授（相当））よりなる学術委員会（総員5名以上）が行う。少なくとも1ヶ月に1度のテレビ会議システムを通じてきめ細やかな指導体制を構築する。</p>	<p>【実施状況】</p> <p>平成28年4月18日に予定されていたが、チリでの大雨の影響により開催を延期した。</p> <p>第1回</p> <p>平成28年5月9日（月）20時～</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 設置計画履行状況報告書等について 3. 単位について 4. MOUについて 5. 知的財産権について 6. 学生の指導について 7. その他 <p>(28)</p> <p>第2回</p> <p>平成28年6月14日（火）20時30分～</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. シラバスの公表について 3. 単位の認定について 4. 知的財産権について 5. 来年度の試験日程について 6. プログラム運営における責任の所在について 7. 学生指導について 8. 学部長会議について 9. その他 <p>第3回</p> <p>平成28年7月21日（木）20時30分～</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. シラバスの公表について 3. 単位の認定について 4. 来年度の入学試験日程について 5. その他 <p>第4回</p> <p>平成28年9月26日（月）20時～</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. パトリシア・ゴメス医師の日本訪問について 3. 12月の訪問団の準備について 4. JDPの発展及び2017年の割当について 5. 日本人のリクルートについて 6. その他
---	---

	<p>第5回</p> <p>平成28年10月17日（月） 20時～</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 単位認定について 3. パトリシア・ゴメス医師の日本訪問について 4. 12月の訪問団の準備について 5. Joint Workshop 2016@TDMU (FD研修について) 6. その他 <p>第6回</p> <p>平成28年11月22日（月） 20時～</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. マルガリータ・アウマダ氏のプレゼンテーション 3. パトリシア・ゴメス医師の日本訪問について 4. 12月の訪問団の準備について 5. Joint Workshop 2016@TDMU (FD研修)について 6. TMDU教員のチリ出張について 7. 日本留学フェアについて 8. その他 <p>第7回</p> <p>平成28年12月7日（月） 15時10分～</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 学術委員会委員について 3. 入学試験について 4. 消化器内科のプログラム内容について 5. 学部長会議について 6. その他 <p>第8回</p> <p>平成29年1月31日（火） 20時～</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. TMDU教員のチリ出張について 3. MOAについて 4. その他 <p>第9回</p> <p>平成29年3月21日（火） 20時～</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 学術委員会委員について 3. 単位認定について 4. 設置計画履行状況報告書等について 5. TMDU教員のチリ出張について 6. 学部長会議について 7. 次回会議について 8. MOAについて 9. その他
--	---

	<p>第1回</p> <p>平成29年4月10日（月） 16時20分～</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 学術委員会委員について 3. 消化器内科学コースについて 4. 上部消化管外科学コースについて 5. その他 <p>(29)</p> <p>第2回</p> <p>平成29年6月13日（火） 20時30分～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 10月入学の試験日程について 3. チリ大学教員の渡日について 4. 学生の指導について 5. その他 <p>第3回</p> <p>平成29年7月26日（水） 20時30分～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 10月入学の試験日程について 3. 各試験委員について 4. 進級試験及び評価試験委員会について 5. チリ大学教員の渡日について 6. その他 <p>第4回</p> <p>平成29年8月8日（火） 20時30分～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 合同面接試験の結果について 3. チリ大学教員の渡日について 4. Joint Workshop 2017@TDMU (FD研修)について 5. その他 <p>第5回</p> <p>平成29年8月22日（火） 7時30分～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 合同面接試験の結果について 3. その他 <p>第6回</p> <p>平成29年9月26日（火） 20時～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 指導教員について 3. 自己点検・評価及び外部評価委員会について 4. チリ大学教員の渡日について 5. Joint Workshop 2017@TDMU (FD研修)について 6. その他
--	--

	<p>第7回</p> <p>平成29年10月31日（火） 20時～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 学術委員会の委員について 3. 単位認定について 4. UChにおけるTMDUの科目認定について 5. 学生の履修計画について 6. 奨学金について 7. 自己点検・評価について 8. チリ大学教員の渡日について 9. 次回会議について 10. その他 <p>第8回</p> <p>平成29年11月28日（火） 15時40分～ 及び 平成29年11月29日（水） 15時40分～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 入学試験の日程について 3. 出願資格の緩和について 4. 学生への経済的支援について 5. 自己点検・評価について 6. その他 <p>第9回</p> <p>平成29年12月28日（木） 8時～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 入学試験について 3. 自己点検・評価について 4. 第三者評価委員会について 5. 進級試験及び評価試験委員会について 6. 学部長会議について 7. その他 <p>第10回</p> <p>平成30年1月30日（火） 20時～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 入学試験について 3. 自己点検・評価について 4. 第三者評価委員会について 5. 学部長会議について 6. 学生に関する確認事項について 7. その他 <p>第11回</p> <p>平成30年3月27日（火） 20時～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 入学試験について 3. 単位認定について 4. 学生に関する確認事項について 5. 第三者評価委員会の結果について 6. 設置計画履行状況報告書等について 7. その他
--	---

	<p>第1回</p> <p>平成30年4月24日（火） 20時～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 進級試験及び評価試験委員会について 3. 設置計画履行状況報告書等について 4. その他 <p>(30)</p> <p>第2回</p> <p>平成30年5月22日（火） 20時30分～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 出願資格の緩和について 3. 入学者選抜試験について 4. 進級試験及び評価試験委員会について 5. チリ大学における日本人用の授業科目について 6. その他 <p>第3回</p> <p>平成30年6月28日（木） 20時30分～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 入学者選抜試験について 3. 進級試験及び評価試験委員会について 4. その他 <p>第4回</p> <p>平成30年7月24日（火） 20時30分～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 入学者選抜試験について 3. 学位論文審査について 4. その他 <p>第5回</p> <p>平成30年9月6日（木） 20時30分～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 合同面接試験の結果について 3. トレス先生の来学について 4. Joint Workshop 2018@TDMU (FD研修) について 5. 自己点検・評価について 6. その他 <p>第6回</p> <p>平成30年10月11日（木） 20時30分～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 合同面接試験の結果について
--	--

	<p>第7回</p> <p>平成30年10月29日（月） 20時～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 修了要件について 3. 単位認定について 4. 入学資格の緩和について 5. 入学者選抜試験の日程について 6. 指導教員について 7. 学生の履修計画について 8. 学生への経済的支援について 9. 自己点検・評価について 10. その他 <p>第8回</p> <p>平成30年12月12日（水） 20時～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 学術委員会の委員について 3. 指導教員について 4. 自己点検・評価について 5. 入学者選抜試験の日程について 6. 転専攻について 7. 学生アンケートの結果について 8. 学部長会議について 9. その他 <p>第9回</p> <p>平成31年1月31日（木） 20時～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 入学者選抜試験について 3. 修了要件について 4. 自己点検・評価について 5. 学部長会議について 6. 学生の研究活動について 7. その他 <p>第10回</p> <p>平成31年3月26日（火） 20時～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事要旨について 2. 入学者選抜試験について 3. 単位認定について 4. MOAについて 5. 学生の研究活動について 6. その他 <p>(元)</p>
--	--

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 大学設置基準第51条2項に規定されている携外国大学との「協議の場」について、実施状況（開催日・議題等）を記載してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

東京医科歯科大学及びチリ大学合同の学術委員会で行う予定である。(28)

東京医科歯科大学及びチリ大学合同の学術委員会で行っている。規則は別添参照。(29)

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

毎月1回開催する予定であり、平成28年度第1回学術委員会は5月9日に開催した。(28)

毎月1回開催しており、教員及び関係事務が出席している。(29)

c 委員会の審議事項等

- (1) 入学者選抜に関する事項
- (2) 学生の身分（在籍の管理）及び安全に関する事項
- (3) 学生の奨学及び厚生補導に関する事項
- (4) カリキュラムの編成及び実施に関する事項
- (5) 教育組織の編成に関する事項
- (6) 成績評価の方針に関する事項
- (7) 研究指導教員の選定に係る事項
- (8) 評価試験委員会の設置に関する事項
- (9) 学位授与及び課程修了に関する事項
- (10) 教育研究活動等の状況の評価に関する事項
- (11) その他両大学が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

開講初年度のため現在未決定ではあるが、各専門分野の教員が最先端の知識を全教員にフィードバックする予定である。(28)

平成28年12月チリ人教員3名を招聘し、高等教育制度や両国におけるサブスペシャリティの現状について講演を行った。また講演内容に関するアンケートを実施し、次年度の教職員FD研修に活かす予定である。(29)

平成29年11月チリ人教員3名を招聘し、日本の新専門医制度や治療法の現状について講演を行った。(30)

平成30年9月チリ人教員1名が本学を訪問し、JDP及び本学の国際的な健康増進の取組について講演を行った。(元)

b 実施方法

テレビ会議システムの使用または訪問、招聘による実施方法を検討している。(28)

日本にチリ大学教員3名を招聘し、本学にて実施した。(29)

日本にチリ大学教員3名を招聘し、本学にて実施した。(30)

チリ大学教員1名が本学を訪問し、本学にて実施した。(元)

c 開催状況（教員の参加状況含む）

開講初年度のため、来年度以降実施する予定である。(28)

2日間に渡り行われ、大学教職員及び学生を含め、計63名が参加した。(29)

2部構成で行われ、大学教職員及び学生を含め、計65名が参加した。(30)

大学教職員及び学生を含め、計12名が参加した。欠席者に対してはDVDにて後日共有した。(元)

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

開講初年度のため、来年度以降実施する予定である。(28)

本学においては研修内容を3年次以降の本学での臨床研修に活かす予定である。また、情報共有するためにチリ大学へDVDを送付し、研修内容の一部をチリ大学HPに掲載し、その他教員が閲覧できるようにした。(29)

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

今年度末に学生に対して実施予定である。(28)

平成29年4月に学生アンケートを行い、結果についてテレビ会議で共有する予定である。(29)

平成30年10月以降に学生アンケートを行い、結果についてテレビ会議で共有する予定である。(30)

b 教員や学生への公開状況、方法等

学術委員会等において審議・報告する予定である。(28)

学術委員会等において審議・報告した。(29)

学術委員会等において審議・報告する予定である。(30)

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

開設初年度のため今年度は実施できないが、来年度以降毎年度学術委員会にて自己点検・評価を行う予定である。(28)

平成30年3月に学術委員会及び医学部長会議にて自己点検・評価及び外部評価を行う予定である。(29)

平成30年3月に学術委員会及び医学部長会議にて自己点検・評価報告書を作成した。その後外部評価委員会に作成した報告書を提出し、プログラムは「Ⅲ.計画を十分に実施している」との評価を受けた。

外部評価委員会委員から出た意見については、学術委員会及び医学部長会議で共有された。(30)

平成31年3月に学術委員会及び医学部長会議にて自己点検・評価を行った。(元)

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・平成29年度実施後速やかに公表する。(28)

・平成29年度実施分についてはホームページにて公表している。(30)

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定。(28)

・大学ホームページ上に公開。(30)

③ 認証評価を受ける計画

・東京医科歯科大学における認証評価は令和2年度までに審査を受ける予定である。またチリ大学においては本専攻は既存プログラムであるチリ大学大学院メディカルサイエンスプログラムに組み込まれており、今年度当該プログラムは外部機関による認証評価を受審予定である。(28)

・東京医科歯科大学における認証評価は令和2年度までに審査を受ける予定である。またチリ大学においては本専攻は既存プログラムであるチリ大学大学院メディカルサイエンスプログラムに組み込まれており、平成28年8月に当該プログラムは外部機関による認証評価を受審し、平成28年8月から平成32年8月まで認められている。(29)

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年 6月頃予定 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

**東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻学術委員会内規**

平成 29 年 4 月 13 日
制 定

(趣旨)

第 1 条 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻学部長会議内規（平成 29 年制定）第 9 条第 2 項に基づき、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻学術委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第 2 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医歯学専攻の教授又は准教授 2 名以上
- (2) チリ大学の教授又は准教授 2 名以上
- (3) その他委員長が必要と認める者

2 前項の委員は所属する大学の学長が委嘱する。

(委員の任期等)

第 3 条 委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。

2 委員の任期の末日は、当該委員を委嘱する学長の任期の末日以前とする。

3 委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第 4 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 入学者選抜に関する事項
- (2) 学籍に関する事項
- (3) 厚生補導に関する事項
- (4) 授業計画及び履修に関する事項
- (5) 教育組織の編成に関する事項
- (6) 教育方針及び教育方法に関する事項
- (7) 進級及び修了の認定に関する事項
- (8) 学位論文審査に関する事項
- (9) 教育研究活動状況等の評価に関する事項
- (10) その他国際連携医学系専攻の教育研究に関し必要な事項

2 前項に掲げる事項に関して、東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻学部長会議において審議又は報告するものとする。

3 前項に掲げる事項に関して特に必要があると認めるときは、医歯学総合研究科医学系研究科運営委員において審議又は報告するものとする。

(委員長)

第5条 委員会に、委員長を置く。

2 委員長は、第2条第1項第1号又は第2号の委員の中から1名を選出する。

3 委員長は委員会を招集し、これを主宰する。

4 委員長に事故があるときは、委員長の指名する者がその職務を代行する。

(開催)

第6条 委員会は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし必要があると認めるときは、臨時に開催することができる。

(議事)

第7条 委員会は、第2条第1項第1号及び第2号に規定する委員から各2名以上出席がなければ、会議を開き、議決することができない。

2 欠席する委員は、職務の都合上やむを得ない場合、欠席委員以外の委員を代理人とする委任状を提出し、出席とすることができる。

3 議事は出席した委員（委任状を除く。）の過半数を持って決し、可否同数のときは決定を保留し再審議とする。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(委員会)

第9条 学位論文審査に関する事項について試験を行うため、次の委員会を置く。

(1) 東京医科歯科大学・チリ大学学位取得試験委員会

(2) 東京医科歯科大学・チリ大学評価試験委員会

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第10条 委員会の事務は、統合国際機構事務部国際交流課において処理する。

(雑則)

第11条 この内規に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この内規は、平成29年4月13日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則（平成30年6月21日制定）

この内規は、平成30年6月21日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則（平成30年7月2日制定）

この内規は、平成30年7月2日から施行し、平成30年4月1日から適用する。